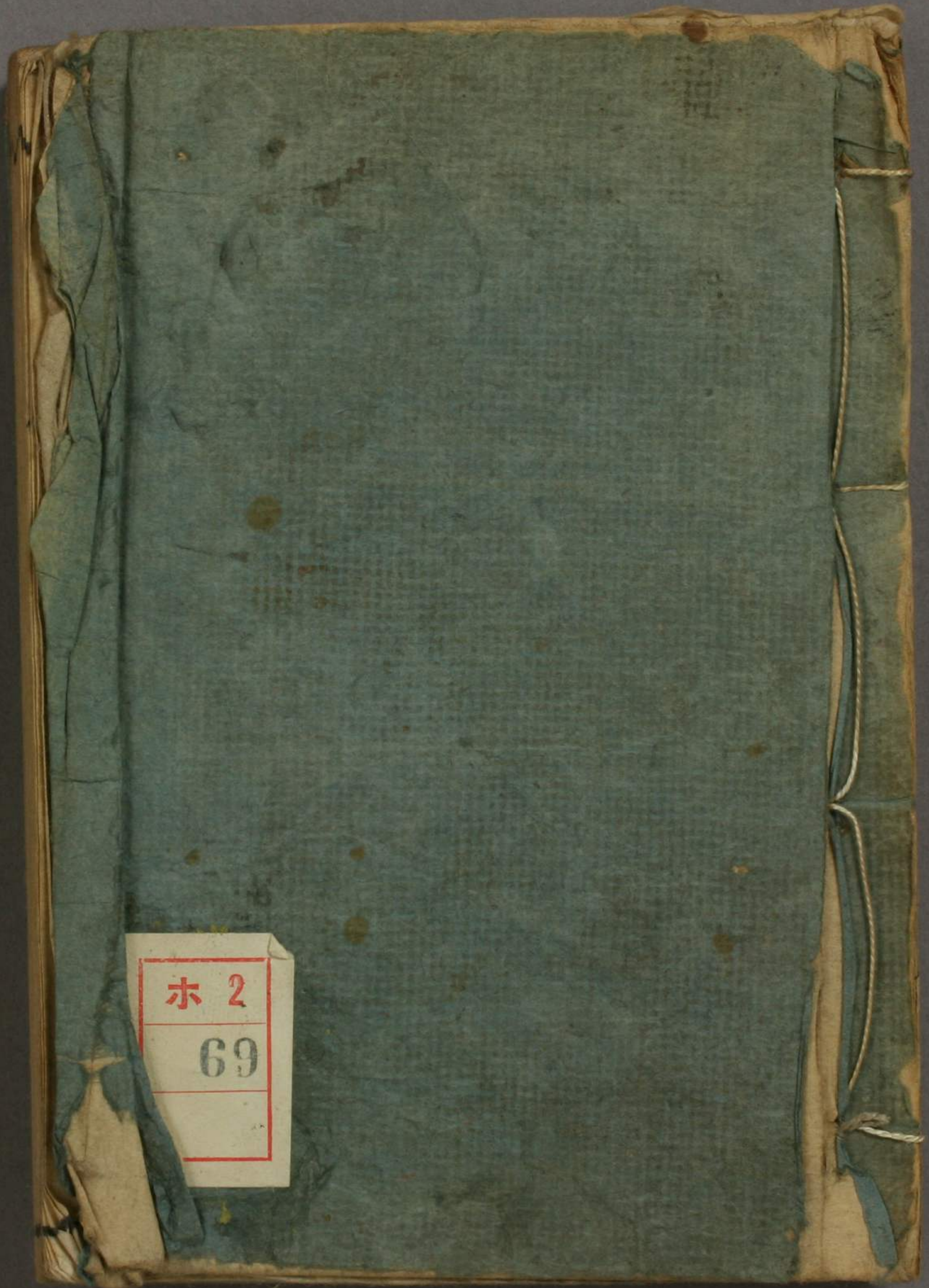


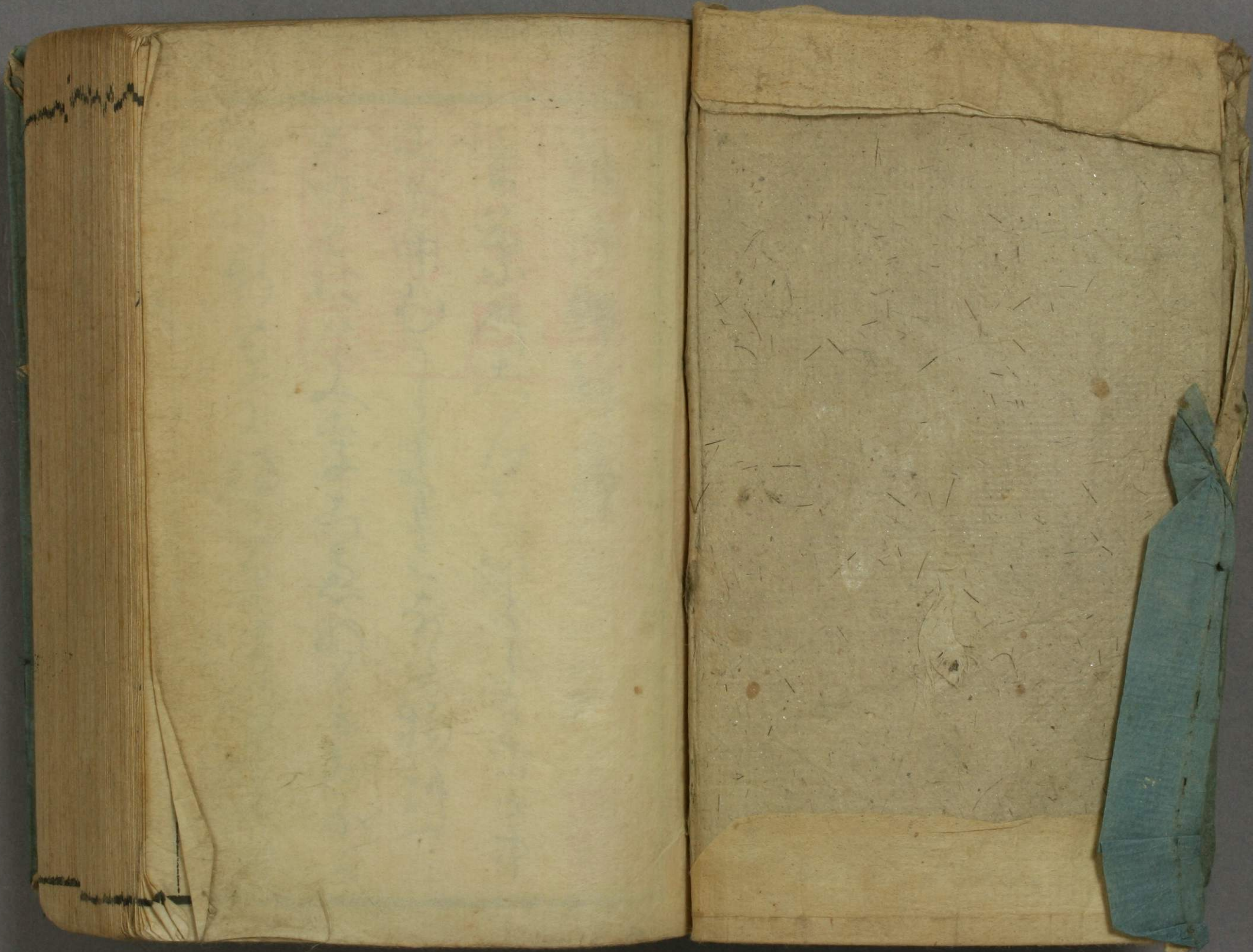


2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 1



ホ 2
69

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **10** 1 2 3 4 5 6
TaJima JAPAN



和書

来也

三三三

雅語譯解序

言のふりては

あも申む

あもに

69 世ハ

序

12

世ハ

和書

ちちこつておぼへてくたを
あつ子ひ乃ちちちち鈴木眼ぬし
ち比ふれちちちちちちちち
いと流るるちちちちちちちち
しち離屋たをちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちち

をさしとく人きまふもたあるるく
くくはく物きれるけみよか
る魚にくまえおくかたにおく
たふも時ハ又政之ひめ及くさる
たふらとらばまう人ち同くわけた

雅語譯解九例

今の世乃俚言を俗語あり。古今集以来乃歌。
又古詞書の統。又古物終ぶとあとの。今乃世に
耳あれぬ詞或を詞を因ドけ終ども。意ぞえの
異あはあどハ。雅語あり。茶茶集以上古記終詞
の類。又古事記書紀小あ。尋常ヨソの雅語よりも。
和耳を記詞を古語あり。是を古事乃清光師の
注釋よりて。古語譯解といふものを列小甚ハ也

庵し今あげたる雅語の中ふた此古語のこのハ
らぬもあり又を回し廻るがごとく老の轉りたる或
を文字ごゑ是國語カキコトのまじりたるあど古語よ
り又られまことハ當時の俗語あれども人々より
これぞ雅語ともいひつべし

○譯とは此種傳を今の俗語小あつるをいふあ
り一つ傳小傳オツあまことあるも有り又をあまこの
語の一つ傳小傳オツるもあり

○解とは傳小して明しごとく盡しがこと此所
をぞ注釋の類しごとくを云

○解より譯の便りよあるは先師の古今を讀
小傳せしれしが如し此書ハ遠鏡小本づきま
とを傳先師乃注釋小しりて譯解を兼用て
特設を部歟してヒサガス持討小便ありむ特文乃
書を又世人参考の助けとありざりもあ

○此書活語ハシキコトを多く載せて、名目の語をバ多く
 を省けはハ名目乃語を、注釋をぞふえどよく
 あり、然て紛る事もぬ、のるべけれど、活語のこ
 ころぞえを紛らそ、くして、新小解解を加へざ
 るぞ、細のふを、曉るがとき、あるあり、すべて耳ち
 かに、細のありや、或ハ大方もら、一つ
 ○詞を集るツクイテ次第ハ、いろはを用ふ、仮ア、いとよけ
 き、を、あり

○詞を標ハシるにハ、すつと、またる、本語をあるべき、き、
 ありと、譯の、後勢あり、ひ、つ、とき、ある、盡く、ま、さは
 得あり、べ、いの、都、小、い、な、けて、と、ある、て、い、た、く
 と、は、あげ、ざ、る、の、如、し
 ○すべて、細ハ、俗、小、同、ト、く、て、意、の、異、ある、小、ハ、こ、中、
 小、ん、を、つく、金、地、わ、ざ、あり、又、一つ、細、の、内、小、俗、語、と
 同意、ある、と、異、ある、と、ある、を、異、ある、方、の、こ、を、得
 せ、う、い、そ、ぐ、小、シタクスルと、諺、を、つけて、俗、小、い、そ、ぐ

とりよと因ドことある方をいふべきことあり

○古今雅俗小ことりてたがふる如く、さまざまハ
―たるやあた相多し。そハすべてあげて

○譯解の思ひふりぐこまハ暫く後の考へをま
ち。或を相乃又おとく。それるも多のるべかれ
む。それるこ後の補ひをまつあり

○^{ウヰ}初學の^{ミヤビ}人雅文書をよむ時、此書を借小て考
へん。ハ、^ハ助とぬる事あるべし。若雅文を

のんとて、此書はこをくへて校とせば、たがひ
る多のるべし。まづこをの細うあるんを
先、詳と解つて、それら記まへがこくさし、^{ウヰ}難き
事乃多かるを、そをたぐ、^{ウヰ}難きを、^{ウヰ}小く
ス。そある極小よりてぞ、ゆゆもし、書も、^{ウヰ}一つ
^{ウヰ}難きを、^{ウヰ}あり、^{ウヰ}なり

○今世に假名書ナミカキののぶづのひを、大方儀オホカタギ多かれ
ど、は書と引合するふ、正し、^{ウヰ}たがふを、^{ウヰ}あつて、^{ウヰ}ハ

おおをえゑの教たがふ事一何るべし。初学の人を。
 古言様。雅言假字格等小しめて。假字をたぐす
 履し

鈴木脛

雅語譯解

いノ部

離屋鈴木朗輯



いそぢ

シタク
ヨウイ

いそぐ

常言小同ト又
シタクスル

いとあむ

モク
ロム

いとあ

イソガシイ
暇あきこ

いとあま

息捲あり。怒てあらう
かふものつかさまこ

いあむ

辞退スル
承知せ又

いとあ

キノドクナフビンナ
イトシイワこえ



の勢あり。物狂を物を
くるわーといふが如し

○いひま〜ん

イハウヤウモナイ
ゴンゴドウダンナ

○いもん〜の〜あ〜

共小上と
同こと

○いま

タツタイでガタハるをあり。追ッ付ケハ未来ニイニテニとも譯
まじ。これ亦現在の今をあてせてふが俗語と同ことあり。

○いまひら

モヒトツといふあ
ころ候の今あり

○いづこ

○いづく

ドウイフトコロ
何トイフトコロ

○いづら

ドレド
ウジヤ

○いづ

ち ^{ドツ} ^{チヘ} ○いづハせん

ドウナルモノヂ
ヤゼヒガナイ

○いでや

云 ^{イヤ} ^{モミ}

○いで

イヤモ
ミドレ

○いで〜

ドレ
ドレ

○いさ

ドウ
カ

いさや

イヤサさもトすむ。
トのいざとハ異あり

○いざ

アサ

いざあふの
いざあり

○いつ〜の

イツ
ニヤラ

○いのに

云らん

ドノヤウニカミデア
ラウサゾミデアラウ

○いのに

ドウヂヤ
て切る時

○いらへ

○いつき娘

ヒサウ
ムスメ

○いちをやし

スパ
ヤイ

○いたけは

幼き
あり

いはけて

若輩ニ上と〜ある詞で
程同とあり。はれ外ふもあり

く
ココ
チラ也

○いじじ エライキツイ善きものにも悪きものもいふ キツウ ヒドウ ○い

○い ヒドウ ヒト シホ キツイモンヂヤ エライヒドイ ○いさめ

○いらあ ケシカラ ズヒドウ ○いと ヒト ○いさかく イツソコ ノヤウニ

○いぶせ 悪き物を見聞し悪きものを思ひかどして心ようぬさまあり ウルサイ シレキナ ○いかき心 あはれ 心あり ○い

○いのめ エラウ大 サウニ ○いさむ セイタ ウスル ○いさかく イツソコ ノヤウニ

○いぶか フシレナトクト ことトビケタイ ○い

○い 不吉 チ ○いぶか フシレナトクト ことトビケタイ ○い

た 手負病を介抱するゆへ大切にして念を入るべきを ワツラフ みともつ ハ 我病を自りさるるさる

い 勤切小なりて昇進御加 せいめ 終ふをふ 恩 ○いまめ フシレナトクト ことトビケタイ ○い

い 花ヤカナ ハデナ メツラシイ いまえく 風リウ メク ○いひ ツク 行届テ井ル ○い

い ヒニイ ヒヤフ いまえく 功ラヘテ井ル ヨク行届テ井ル ○い

い セシガナ イムダ いもうと 女の兄弟を男よりい ふ姉妹かわるるべ ○い

ひは

ラチノアカヌツカハハナシデモナイモノ
今俗心つてなれとフガヒナイとツカハ即此詞あり

いぬ

ハ子イルとぬハ
ヨコニナルあり

いとぬず

子ラ
レヌ

いを

やまぐぬ

ユツクリト子イルいとぬとハ詞
別ある故ハ聞にてにをたの入

いぎさか

寝さうりたるさ
まゝいハ寐

いざし

目ガハヤイ
上の寝か

いま

そが又いすかり

下ハけいふつて死でふつてくお
まんと回しやうちまどが

と少てヤんことおれ人のいとかとまおくておとすまけんあるべ
海をハ在しくありを又ハいすかりとてさかーがなるものか

いので

ドウゾシテ
ドウガナメ

いとまのひは

テス
キ

いぬ

ダシヌカレルナ
訓抄よ及ぶり

いをまじり

尤チ
ヤ

キコエタ
フヂヤ

いほしも

時モアラウニすてて志もの心此外も皆
今トイウ今同ド又今デモと譯

する時
ト又心な

いさかふ

アラソヒヤフ 俗語ハ大方同一
ハ否ありかふハかえすあり

いづさいづけても

イヅレニシテモ
ドチラヘシテモ

いきぶれ

いかに

行カ、リ
死穢ニアフ

いうそく

モノシリ 故実シヤ
有識あり又文字の

心をたふして、たゞ堪能ノゲイシヤ
のすもあつたおどるものあり

○いらくぐ

寒き時鳥
肌立

○うどむ

ヤハリ

うどむ

アア
ソヒ

○いもぬ

忌居なり精
進してある

ふ

○うたむ

まやはしるはつと月
のうたむはつと月

○うひそす

こはくしひあ
そよととき

○うくそづく

イクラカ
ナボウカ

○いやえ

みある

月日をもへても懸一さのやま
でいとほげからあるさま

いや免のけーれ

ナシダガ
ナナライ

○いでぬ

デ井
ザシキ

○いやーうも

カリソ
メニモ

○いらぢるー

古いつちあちーとい
へり明白に著明あり

○いひけつ

イヒッ
ナス

○いへとじ

儀内

○いさを

キガ
ウ

○いさをし

勤勞出精の有さまと云。ハ
いさましだけーのあり

いさをし人

キガフモノ
忠勤モノ

ろ部

ろちう

云

論かくしイフ
ニオヨバズ勿論

○ろくさく

綴袷
の字

音よて六
位の服へ

は部

はつあ

ワヅカかまらふ
いさくうなるま

○はふまて

流浪
シテ

○を

あうん

俗のホカスホオルハ此詞の形あり
ヤリツパナレニスル
ステモノニスル

○はえ

兼
くまをくし

花ヤカナク
ワイタイナ

○をくしたは

ツキモ
ナイ

思がうナイ
ツキホガナイ
ヒヨコナ

けくさあむ

コレハ
ヒヨコ

フツガフナ
フサウオウチ
フツカナ

ナトト人ヲ入
キタウワクサ
コマウセル
セルイヂメル

をくした

ヒヨコナモノをくしたか
小園トまぐ竹取物

語

も

イヨくコリヤ
万葉三
いりやく山ト風のさむ
けく小けくやこいひも
ミダグひとミ移ん

タビシハタ
日本後紀十八宣命
常政有闕バカハタ
神道妨アリバカ
此二ツハ古語のま
本ハ最一てのま
こと同ト田中道麻呂
ハへり後

マトテモコレモツテ
とつふことあり
云ハ又と回ま
よあまり云くは
ハ云レダ

○はでか

遠魚
スル

えどかアと

イロクキ
ヅカヒナ

○はうね

ウチモナイ
ナンデモナイ

物ゆた
うあ
定ア
あを
うま

はうねく

ナニゲナワチヨ
トツイチヨツト

○はう

をりし

レツカリ
トメ井ル

○はぐむ

俗語ト同
ま本ハ羽含よ
ま
もまたとく
る詞

○まぶる

本語考た後井マ
小遠在ありスル

云こ小付る

デゴザリマス
物の様こ

云こ志付る

仕リマス
皆崇へ詞あり

○はやく

イツカ
先年

ズツトマヘカ
タツラ以前

○ま〜あ

イザガ
ワルイ

○はらぎた

あー

腹ハ心と
云小回ト

○まやまか

テアライ
テヅヨイ
まあり

○もて

アゲタ
シマヒ

○はつ

敷まらるハのこ〜ん敷く
もつるハマツクラニナル〜云い

あ〜らとよ
詞皆同と云

○まぐり〜げん

キガオケル
アツハレナ
キヅカイナ
人のこ〜ら

のとけぬさまをひ又何るもすぐれたるをもつふニッ
と〜小わがこ〜らのま〜ぐり〜く〜あ〜かく比物あれバミ

○はげ

ひ 右左の羽根の行ちぐひたををふかひ
ハか〜〜く〜た〜お根を〜ハ俗語〜

○ま〜る

ホツ
レル

おの糸の場よ
たあ〜〜〜あり

○はらか

同腹の又才〜後ハ
同後あり〜でも〜

○ま

ら〜ら〜

ソコレン
ガワルイ

○はらめく

バラツク
雨
の音のたひ

○ま〜〜〜

晴
カラリトシテ井ル
額の廣きやうのれ

○はげます

せカ
せル

激怒せー
むるあり

○ま〜

母のこ〜形〜
祖母を〜

○ば〜ぞく

ゾラウク 字音とき
こもきま字ハ未審

○ちかおろむ 狂き
根あり ○ちく

ををちちては まきチ
ケテハ

○はぎにあぐ ち
ハ腫

あまごい 本居翁云人小物を取
尺するすをかくいひあまごい

○まきばか

云くホド云く
スルクラ井ニ

○ちひ カトグチ
這入あり ちひ

ちど ツイ
ワコ

に部

にくー スカ
又

○にくげ にくさげ スカ又
風

○にげあ 不相
應

にげあぢど フサウオウ
ノ年輩

○にやひ 香氣の外ニはむいとつふゆり 梅山吹などの花
の名又ハ美人乃わわの俗小愛きつノダこがれ

とつふやうあつふをいふれありつふよいれぬうつうさみ
本質ををあるけけつをいふくされ 竜つや光あをを太時

ふりてハ 上のまめて
語小あれさく ○にふふ ○にるひやか

花ヤカ ニノ
キリ ○ニの町 ○にのむ ウルサ
ガル ○に
愛え ハ

よふ

ウカ
呻吟

○にちー

ムル井
ギヤ

○にくーの

ニウラ
レイ

○庭もせふ云

庭モ狭シトハイニ云くと云ふ事
あり。道もせふ野もせふの故皆同

一。後ハハ誤りて。庭の
道あり。此の字とせり

ほ部

ほのく

ボオツト曙
のやの回廻

ほのの

たーうあ
ぬさま

ほのめ

かま

ウスくケブ
ヒキシラセル

○ほど

位も耐ふたあまのいふ時ふ
て云くすはほどハ云くスル

ウチ

ほどにっけ

今サウ
オウニ

○ほのげ

アレドノア
カリ

アインドノアカリ
デニタアリサニ

○ほろげづねた

ホトケ
クサイ

○ほ

ん

本の字ニ
テホン

○ほくゆがめて

ニチガ
ヘテ

○ほくえ

む

ニウコリトワラ
フほくハ窓

○ほどく

去の財。モナツトテステ
ノ一ニ取を末末のと記。

ドウヤラワルウレタラ
のむ昂是。殆バアヤフキ
子カキ去あり

ほどく

あやふく。莞束
ふまころく

○ほい

本意の
字音

ほいあ

思ひ。つ。疑の
セニガナイ

○ほろく

く

ほろくげて

バラクト
サセル

○ほだ

邪トトヒ豆手

○ほとりなむ

チカ
ヅク

○ほけ

老ボレタ
トボケタ

ほきたり

とも云源氏
常友の巻

ほけく

ほけさ
さま

○ほて

相撲のセキトリあり。
最午のまぐヌ帆綱

○ほん志

性トク
本性

○不いづ

ク子へ出スカク
サズニ表へダス

○ほが

カウリほが
又かがりくと

へ部

へつらり

石川雅望云。曾丹集よ二所見えたり。へをつらりして。意釣をつらるるべし

○へー

すゑて

同人云。著聞集よ見えたり。今もオツペレテあどふ

○へどつく

俚語のやうか

まど。竹取物語
小も見えたり

○へた

ハタ海濱をへたこと
ひへハあきへのへた

○へつらふ

鈴屋翁云。すべて以河かおとらへつら
やうのんえむとアむむとよと同と

と部

ところろせー

キウクツナ
バセナ

ところろせく

ダ、ビロウ
仰山ニ

ところろせきまど

オキバノナイ位ニ
パイニヒロガワテ

○とく

トビレ
ダ中

今商人の得意と云詞
即是此を轉ノリたる也

○とハに

常住

○ときえ

か死を

万代
不易

○とことえに

イツモカ
ハラス

○と

き免く

時を得て用らるゝんハヤル出頭
寵愛ニアフ又ム子ガドキツク

と死免

かーあふ

御寵愛ア
ソバヌ

○とかく

ナンノカノト
イロクト

○とよむ

ドンド
トネ

とよみふなる

トツト一座ノ大
狭ヒニナル

○とみあうことする

アキニフニタリコチ
ラ見タリシテニル

○とり

ざりふ

メイ
クニ

○とのお

御夜詰ト
マリバン

○と

がふー

云分ガ
ナイ

○とそこ

急トハ
疾あり

○とし

精進
カチ

○とりあは

ソいふす。俗流のまは大方同ト。俗流ハ愚
きをよばねハソいふすのト小用るを。雅ホてハ

きをあきふひな
ナ方小多く用る也

○とらもな

ハイ
キ

○とをの

マ
レバラス
ノウチ

○とだえ

中絶
トギシ

○ともすれむ

何ゾト
イフト

○とふらふ

見
フ

とふらひ

ミヒ使て物
を妨るるをも

ソル。俗語の
ヒ不すて同ト

○とお里さかいら

ソキカライラ又
セワ世音聞集又見

え
○とこをふる

夫婦離縁
まらあり

○とが

鷹野

○とぢ免

ヒ

とぢむ

フ

○とアもち

て
ニ必死

○とりのこ

養
子

○とる

俗小アてとる
あどつふとるに

同ーき
るあり

○とごろく

ドロウクとごろハ今ドンドと
いふが如く。時津あどのあまへ

○云くどち

何ト
ウレ

○とを

ヒツク
魚あり

○時しもあま

時節モアラフコト
ヂヤニサレ合セテ

○とめく

跡ふア
収まるく

ち部

ちぎる

ヤクソ
クスル

ちぎア

契ヤクさきの世の約束の
の時。宿世と云小同トク
シヤ

ハセインエレインダワ

クワハウの心小ふるより

○ちうまさり

迎くてこれたを
目よりハまさり

て又ゆるきハめ
てより人をいふ

○ちこのおとり

上のう

○ちお七

乳母
なり

○廳ちやう

役所

○ちこどろ

石川雅望云沙石
集小又えより俗

語小
同ド

○ちアとむのア

一向ス
コシ

○ちアとかふ

アチラ
カラモ

コチラカラモ
ワリニチル

○ぢ

碁よりちとあるハ
今ツふせきまや

○ちやうず

打擲スル
又とのめせむるゆきを
いへハ懲ずるてもあらん

ぬ部

ぬきぎぬき

△シツヲウチルぬれころもとふ
ふるきぬきあていせお侍も又えより

○ぬのづく

ヘイフクスルぬハ額
つくハ衝心て地をつく

○ぬアごめ

ナシ
ド

○ぬるむ

水のまま温ふる身ぬるむとつ
倦かこりてとけゆるゆるをいふ

○ぬ

る

○ぬだすぶき

源氏神の巻ふたがかの侍か
かをぬきすぶきとある

もぬきすぶらかりてきぬきをきせゆる
くとつふる今俗筆エヌキとつよは回一

る部

る

族れ之イチツク
子スジ子孫

を部

をかー

常語と同ーが
かーとハ別

○をち

遠きちまをを
ズツトムカフアツチ

をちちち

アチ
コチ

をちかこ

アツチ
ノカ

○を

をへて

時巡てーイツ
ーデモセツク

○をさくし

シツカリ
トメ井ル

○を

さく

大抵可ナリニをさく云くせざると下
ずとつふ詞ある時々アマリイカフ

○をささ

幼少の發より轉りて人の若輩あるも又ハ
未熟ゆてラチノアカヌころあもあれ

○をじ

氣丈
ナ

雄くー仁体よて云
時キツトノ男ラシイ

○をちのへる

アトモド
リスル

○を

井ルスワツテ井ル居ありのつまりたるもの
りあてとまるるをハトへる時のことむ

○をハの

まー

アホウ
ラシイ

○をこめきて

ダウケガ
カツテ

○をこ

をこハ本俳優の戯むるめきををひて
睥アかくかめ
てあきこむむへきをを善くし俗ニ尾籠とつハハけ

アホウラシ
イフニナロ

ワルビヤレナ
ス井サシナ
コシヤクナ

アホウラシ
イフニナロ

○をがむ

オジキスル
拜スルを
おがむのつまり

○を折れて

道を
行よマ
ガウテ

○をこぼる

ダマシテソ
ビキダス

○をこ

とフ
雅語あり

つひ
トヒ

○をのく

オボク
ルイスル

○をりは

きさ
をり
びん
はし

ジセツガ
ツガフナ

○をそ

こ
をう
か

本ハ
リ男
少
女
の
ゆ
く
特
ド
て
す
ま
て
の
男
女
を
こ
し
ふ
又
色
情
の
支
あ
る
を
い
ふ
こ
と
なり

わ部

わづ
あふ

ヤウ
始テ
又
俗語
は
同

○わさ
り河

三途
川

○わ
く
く
ば
よ

タマ
サ
カニ

○わ
ま
あ
く

メウ
サウ
ニ
ムシ
ヤウ
ニ

ムリ
わ
ま
あ
く
ご
ご

ナサ
ケ
ナイ

わ
り
あ
く
お
ほ

す
ナサ
ケ
ナイ
コト
ニ
思
召

わ
ま
あ
く
さ
つ
り

ヨギ
ナイ
サ
シ
ウ
カ
へ
わ
り
ハ
こ
と
わ
り
と

○わ
づ
ら
は
し

心
ヅ
カ
ム
ツ
カ
シ
イ
ヒ
ナ
メ
ン
ド
ウ
チ

わ
づ
ら
は
し

コ
ミ
ル

○わろもの

未熟
モノ

わろー

ハキトせヌ
ミシシナ

○わろ

どの

廊下

○わろくー

表まぬ一か
の内泥まじ

○わろり

云くわろまはわろりといひて云くへこと云がどし

○おまて

わらあくてお回どこと
必あるまじき事

をぶぐろもーあどのらよ
あひてするころなり

○わろろの

まがふもたふもたふ
笑のころあり

ニコホヤトア
イサウラレイ

○わろくし

若輩ラレイ
初進ラレイ

○おまて

けく
カツニ
ノウツテ

○わびー

メイウクナ
ナシギナ

わぶ
カチシ
ガル

わびーらん

ノイワク
サウニ

○わあく

をのくま同
し又老人の

振い声小物い
ふをもろ

○わろらひ

トセイ
高賣

わろらひん

トセ
イギ

○おすまじごこと

名まぬやうふと
おすのここと

加部

かこて

舞の力
タアヒ手

○かづーふ

カ、
ル

○かこド

けあー

勿体ナイ
恐し多イ

○かけくし

好色ガ
マレイ

○こ

ほ 容あどりの十分ふとのひまろし
きをまわとふまろし
フデキ
○かる 遠の
○このま

がれ トホ
ノグ
○このれろふなる トホノギ
カ、ル
○方

さる 場チヨ
ケル
○このおひ 知ろして形のいまざい
このまぬねをよ

あま 上と
同ま
○かあし
こむくトタマラヌ面白きおもろ
みも哀あるまむつとはーきあもい

ふこと
をこ
○かーづく 大ゆかり
て巻ふこ
○このひあー かひハ
代り

せにガ
ナイ
○かやまー
此かちけろしー
かーふどのけろし

ふ タガ
ヒニ
○かーにし
恐レオホイアリガタイ 又俗語と同
スグレタ 恐レ入タ 意

かーこまる 恐レ
入ル
かーこまり
恐レ多イ儀 ツ、
サレヒカヘ
しこ

○かこふ ブテウハ
フグイ
○かろ
フクイフイヒクサニスル
イヒタテルイヒワケニスル

其物ふか
づろし
○かいたま時 ちそ、のれ
時小回ド
○かごと かとちごと
こかこちを

かろけろ
カヅクゴト
かごとおふ フソク
ウケル
かごとをのりけ

申レワケ
バカリニ
○かぎま
ホドレキリ まくのかがまハ
云てノカ
あま、是ハ人のかがま
のまのぬ限々

ナカヌウチハこられ
ハハハのかぎとあり

○かこま〜

傍痛きこ戀て遊
きふ小煩ハ〜

ミル目が笑止ナキノドクナ源
氏帚木巻ふ〜とけぢうなれバがとち〜

○かひつ〜

ベソ
カク
○かどくし

リハツナキハダツタキフシ
カドヒレノアルキマヘ

○かうし

神〜俗カウくトシ
テ井ルとつよよとの轉りあり

○かどやア

ワキマへ心
得ガアル

○か

たのぞ
○かろびたる名

不愼ミフ行儀ナ
ト云評判

○かまへて

必し

○かこハ〜

見苦レイ片羽
フツガフナあり

○かこへハヒト
ワハ

○かまららの

サツ
パリ

○かまお

假庵あり
小屋ガク

○かこぢ

アヒ
テ

○かべ

夢

○かまむ

ホノカニ耳
ウチスル

○がて

云くがてハ云く〜
難げとよふる

○かつ

カタテマ
半分のまこ

○かつハ一ツハカ
タココロ

○かつ

ソロクト
小口カラ

○かぢやか

マバユウハ
ツカレイ

○かぢやか〜

云
ハツカレ
サウニモ

ナウ
云く

○かぢやく

ハツカ
シガル

○まこが糸

兼あると婚ダ
糸ハ婚ハせん

と心まうけあさる人々后がひが **か**に も同 **か**しまる

垣間見るハその中俤ふて必垣間ふか **か** ワラ

○からりじて エイヤット **か** ヤカニ

○かぢの ひそみおられておある心ときとも源氏湖月 **か**

けつ 兼官 **か**づけ 装束ノ下サレモノ

○かたご 皮箱 **か** 語ア合ふカケ合フサウ

○か ハナレ合テナ **か** ジニナリ

へ **か** クレグレモ **か** ダンダント

○勘當 セウカン **か** セイ **か** 枕

紙後者を勸す **か** ハニカケテ言テミルサヘ

○かよわ ヒヨ **か** アタマ

○か カ **か** ワキ

ノ契約スル 色事

ノセワヲタノム

返書

ドノミ
チニモ

セウカン
オトガメ

セイ
バイ

枕
草

家来ヲレカル

カリ
ニモ

ヒヨ
ワイ

アタマ
ワキ

かんハ頭んざーハ
面ぎの

から潜むかきとも
ア又引こめの教ん

か

らめきたる

ヒ子ツ夕風
シテ井ル

○裨きびら

古雅十
風チヤ

○かへりまじり

カ礼マ
井リ

○かうきく

お上りさか
つみきやう

かゝるま

○かひせうえう

川殺
生

○かどふ

ぬすみて
こそひゆ

くちあ
カトハカス

○かさやどる

雨ヤ
ドリ

○楫枕

船中ノ
旅子

よ部

よすが

メヨリ所縁
てひきあはる心の縁

○よせ

アヅ
ケ所

○よ

ろらび

カ礼

○よろせずバ

ワルウ
シタラ

○よろが

ふ
ヨウトスル
古き門あと
のころびうらるるを

○世のさが

世ノ中ノ
ナラヒ

○世の

云
ムル井ノえく
大ノえく
たといバ世のす
きもの大の好色人といふるあり又ハ

世小
世よも

とい
ふ

皆甚しくすぢれ
ころころあり

○よーあ

ナラヒガアル
心得ガアル

○よ

むむ
よーえく

アガヲ
ヤル

○よー

仁体ラレイ
切者ラレイ

○よーある人

種姓
かぬ人

○よ

や ヨイハ
— とをかり
○ 云く 世あ— この世
時節

○ ふ ざけ— 大サ
— ウナ ざけく 車く
○ ふ

どむ トゴコ
ホル ○ ふ づのず 世とハ夫
婦の眉を

いへりされば色情をまぬり又ハ男女かごらひ
よれともいまむるのあ—をまづぐべと云へ
よあれず

○ ふ たぢ 夜ガ夜
○ ふ そほ— オイク
トナク

○ ふ そひ ヨソギ
○ ふ そほ— ビ、レイ
リウパ ○ ふ さ

○ ふ とくも赤 ラケク
○ ふ ろ— 大タイ
ヂヤ

○ ふ くらけよ けよハまされ
るケリ

○ ふ ぐもれア 世籠連るくサキガ長イ
○ ふ がま 通ふべき
夜を通ハ

○ ふ ざぢち 夜十カ
○ ふ ね— スギ

○ ふ く よたとくくらく
○ ふ ね— ヨケル
ワキヘノク

○ ふ のふ—き 縁ノ下
金バク

ウ思 ○たのめて 教よせてタノ たのむる云

タノニ思 ハセル云 ○たをやか ナリ たをやぎた ナリ

トニテ井ル たをハ擽 ○たわく ヒウ ○たをやめ ヒメゴセ 擽如

いふ 本をきる声ニ ○たむけ 馬の鼻向の事とも ○たつきおせ

を廣刃の斧ニ メソタニジヤウ ○たをむきにても カリ ○た

をむれよ ダニモナラヌ ○た カ ○た カ

○たてまつ たてまつ ○たつもけ

ぬるも 立チモヒヨシナモノス ○たけ

利運 たると等 たけき デキタ ハ トテハ た

け アメリデキタ ○たけあハ 半すぶる

等 急状 ○たいぢやう マリ證支 ○たいせち 切

○たよ 幸リカテガリ手 ○たぎ ワクセク つ心 思フ心

○玉れ結をのり

ワヅカ
ノウチ

○たゆま

ウチウ
平スル

○たぶさ

物をよづろしふするもの内をよふさハ
總ぬふてよふとすおるをよふさ

○た

づき

テガ
コシナイ

れ、部

例あれたる

例ハ格式
作法

○例やう

常テ
イ

○例

あし
ゴフ
レイ

そ、部

そこら

オホ
ク

そこをく

オホ
ク

○それのこ

ソノ昔 イセニ 又ハむくののりをい
みついてはソノセツ トウふ時少也

○そこはうとなく

ドコヲシヤウド、イフコ
モナクナニトナウムサト

○そひぶ

子マ
トギ

○そ

ひふす

ヨリカ
カル

○そむづひ

けハハくやそき
山道でひあり

○そバ

不和あるさまへ不和ある者正め
小ハ向ハズしを側目小く故

○そバ

む ワキ見
スル

○そむらつき

ヨコ身ノ
アリサマ

○そむらに

何トナウ
ムサト

○そほづ

シボク
スレル

○そくのかけ

ス、メル
オ、テ、ル

○そくや

ソクと取
込ことを

○そほぶる

雨のシヨボク
フル
フ

○そくうなうり

源氏花宴巻公事にそくうなるニ細ク
しうハ公方の御用かともハ出つては

てかられ
ぬるを云

○そぼる

ソ、カ、シ、イ、と
ソ、フ、ヨ、シ、

○そくおぢれ

ソラト
ボケ

○そら目

ミソコ
ナヒ

○そよぶ

ザワ
ワク

○そびやぎたなり

そびやうのうたれと
セイガキヨイトタカイ

○そ

びゆ

ヌケア
ガル

○そよめく

ザワ
ツク

○そもく

シタ

○そごろさむし

ゾウゴト
サムイ

○そをさ

ふ フ、レ、ナ
リ、ト、モ

○そよ

ソ、フ、コ
ヨ、シ

○そこひは

ねめて深
きを云

○そでつくをそのま

袖ノサキガチヨツト
ツク、ライ
浅き

つ部

つ 舟フナ ヒシト名目小 ○つばらきりマ

つ 〇つと ヒシト名目小 ○つばらきりマ

イバ 早朝 ○つとふ ヨリ合フ ○つも

ア タ、ミ ○つゆをのり たぶつゆとも ○つを

す ツカハサレル 〇つらさ

とく タイヤ 〇つまね レラヌカホレテ井ル ジイツト

ガコ ワイ ○つまね 心ハタマフ子ルムリニカレテカ

〇つら ムゴイ ジウヨクナ ウラメシイ カナシイ

〇つどふ アツニル 〇つかまつる ツトメル うをふ

本語ハツクスハツル 引ガリ 〇つじる

源氏細流子 アツニル 〇つあびく

〇つどふ アツニル 〇つかまつる

〇つどふ アツニル 〇つかまつる

不相應ナ
フツガフナ

○つきあしんえん

ツツリ
ヨウ

○つたあ

くて

ヒヨシナ
デアツテ

○つづく

ニルくと海する時つぶハフ
がくちるくコックと海する

時つぶハフ
ぶさあしん

○つづく

○つむ
マツル
かくま

くふ

○つきあろふ

ツツキ合フ
目引
袖引するま

○づりやの

ツツシこフカイ
引こむ
心よそづーハ厨子

○つやく物もみえず

ア
リシ

カト物
ツツ

○つこ海き身

因果ナ
身ノ上

○ついで

いえ

弊の字よく
あこまり

○つきぐし

ニツコラレ
イ
むラレイ

○洗

やこの

ハツキリト
あざやうく

○つきせす

云 かがアをかくこと
云 ツツ小圓一きる者

○つぶやく

俗めも
小圓一

○つぶさ

メイ
サイ

○つき

まき

ツカ
ウド

○つきく

タイ
クウ

○つまりぬる

契沖云猫の鼠を掃ふ
時のやうふするを

○つこのま

チツト
ノ

○つ

づゑ

ホ
ヅエ

○つまはじらす

小くき物するを
ず時のあはざり

ついで

築地

○ついでむ

啄とかくつ
き食まう

○ついで

ゲ
イヤ

○ついでまう

続松ノ手レヨク
松火クイニツ

○ついでのみ

償

○ついでの云

始終ノ
云

ぬ部

ぬんど

シレバウメコラヘテ
又ガセイヌクヒテ

ぬんど

コラヘ
カ子テ

○ぬぢけたる

心のまがりらぬりてすうとせ
ぬを云
シヤギあるゆへ又添氏

空蟬卷小魚形の無難なるを
採ぢけたる所かーとへ

○ぬびま

年のふけてと
ついでと契沖

○ぬい

ウラニ
クイ

ぬたむ

ロヲシガル
ニクガル

○ぬび

たつ

生長して形かどの
よく稠ひたるを云

○ぬぎ

犒慰
勞

○ぬ

ぬこと

神をいのち
願ヒ

な部

なづき

シタシウナジム 古語よりハウキタ
ダヨフ りとらるを中古小判したる

○なづけて

コレカラダシク月日
ヲヘテ 行末ニナワテ

○ながらふ

年月ヘテモジワト
シテシナズニ井ル

○あ

げのえ云

ザワトシタミ
チヨフトシタミ

○なほ

ヤハリダドウ
シテモトカクニ

○なのさけ

恩愛ジヒ心
風雅ナコ、ロ

なさけあし

キガナイブフ
ウリウナ

ムタ
イナ

なさけくし

子ゴ
ロナ

○なよみく

ヨワク
グニヤク

な

よ、か

グニヤリ
トヤハラカ

なよびう

ヤレワリ
シヤカナ

○なぶのむ

ナガメル
ウワトリトメ井ル
又歌を

○あつこのし

スイタ
ナシヤ

カハユラシイ
アイソ
ラシイ
又俗語と同じ

○かののく

ケツクナナカト小にも
のあふもふきも同じ

○あまえくのし

フウリウナ
シヤカナ

あまえく

シヤラ
ツク

なまめれかえん

タガヒニアギチヤル
ジヤラウキ合フ

○あのみ

シカト
せ又

あのみえん

ナミ大テイデ
ハナク云く

○あまえん

未熟ニヘカタ
のまあり

○あまへん

コハツ
カシイ

あまへん

あまへん
同上

なまめれくし

同上

あまへん

を
コメンダウナ子
ハ教のあまとつふ河ハドウ
クト心ヅカヒナ
ヤラチウクリと云心を
○あ

まくの
ナマ中ノ
ヘタナ
○あまんある云
ハあまハんある
云の五文字へかく

まゝ
ナマゴシ
シヤクナミ
○あ免し
ブサホ
フナ
あめげく
御無礼
ラレイ

○あいざしるお云
シドケナウスとつふさお
るりありりるらどりたささまあ

れど
○あおふあにーあふ
其名ニ持テ井ル又
評判ノミニ名代ノ

心小し用ふ
○あまいづ
陸進するあり
ヘアガルシダス
○あざり

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

アコリ
○あづむ
トゴコ
ホル
○あおむとの
人を侮る

ほあ〜どごあ

ダニウテモ井ラレニイ
トギリヘンノコトバ

○あごあ

の 柔和

○あごらの あごやうか
るさあ

○あまごひ

に ゼヒナク
一ゲテ

○あごるもあ 云

云 ナニデモ
ナイミ

○あべて

一統ニ
一トホリ

あべてあ〜ず

一トホリ
ナラズ

○あ

か〜ひ

縁家ア
ヒダガラ

○云云 あれを

春あれぐ 春デ
イハウナラあり

春されバと

○云

あべに 並よそそれと
同附あり

○あにが

何ノタレウタタレ
ソンジヨソコ

○あず〜ふ

ル 准ジ

あず〜ひ

スコシノ
オトリ

ら部

ら〜くし

功者ナカウノ入ツタ、チらうハ本
勞ハ仕官の年功のことあり

○云云

ら ヨビ〜ハナレギサウニ
ありきの〜らハ
リコニサウニ
き

○らうた〜

カハユラニイムゴタ
ラレイ 勞マ〜

○らうがし

ムサクサトラウツシガナイ ガヤクト
ヤカマシイ 乱かましとゆふく
物ニ心得功者ナル人

〇らうある人

む、部

むくつけし

ミグルシイ オウロシイ キミガワルイ尾
張の田舎の詞ムワケタと云即是あり

むくくく

上小
同

〇むとく

無徳
まり

〇むつ

かる

ハラタツ
イリクム

〇む糸つぶる

キガモメル
タウワクスル

〇むぬ

をつぶす

キヨ
モム

むあつぎし

心ツカ
ヒナ

〇む

糸つる

キガイ
シル

〇むつし

むつし
むつし

く

ムサクロシイ
メニダウナ

〇むげホ

一向ム
クニ

むげく

一向
ジヤ

〇むぞん

無心
あり

〇むど

石川雅望云無期
おイワニデモ

〇むぬ

と云

オモニ
云

む糸とある云

オモナ
云

〇む糸

む糸しるぬ

云

オモダ
又云

〇むひつ

向ひ火を有る人の後立
時我も後立てむふまふ

○む糸もひーけてる

物のつよふ
たがるをふ

○むす

生するれ古語。草むす。苔むす。ハエル
あり。むすこむす。先のむすも同意

○むふで

テブラとよ俗語も。植松有信
云。新野のうつりあふべー

う、部

うけをまて

オレハ
レテ

○うさてあ

イヨク
ワルイ

うたて有る云

ヒヨレナ
メイウクナ

うたて

ヒヨレナ
ヤ重クア

○うもれいとし

ツハレレダマツテ
レバキウワレテワルイ

○うちつけふ

ツツレニサウキヤクニ
ノフトニ父思ヒツキデニハカニ

○う

うろこ

ウレロダ
テ後見

うしろむ

トリ
モウ

○うろ

めし

後目つときくウサシナ
キガユル
サヌ手放レテハアニジラレル

○うろや

すし

キツカヒゲガナイ
あちめしのおく

○うるそ

キツト
井ル

美麗の心あれども
中古小淋してぬ

○うるたしむ

中ヨウ
スル

○う

つーろろ

シヤ
ウキ

うつー心もな

正ダイ
モナイ

○うとま

思ひある

アイサウ
カツキル

○うし

ろて

ウレロ
ウキ

○うちける

立入
タイ

うあ

け

ゴト
立入
セニサク

○うるせ

キウトヨロレウ
るいふ

○ろろ

ハラ

○うらも

何ノワケ
モナウオ

クソコ
モナウ

○うけ

ノロウ
うけひ
うけん

○う

けひく

兼引
スル

○うツ

なウシ
ツベラシイ

○うす

源氏権巻うすまきいでききて。至小櫛云古事
記中巻ふまきいすまきとあると因

ー細中ていそぎとーアて来るさま
こいと知とハ付ふよく西ふきあり

○うかびて

グカ
ツイ

テ定らぬ
さまあり

○うえ

うハ

○うち

云ち

つけよまやきと又ツイチヨツトとよそろもあり。これの發語ふ
ふア云くかき云くあり。ありハ振むくふとれありのこまかき

サツパリ不残と
うろろあり

○うちわす

ツイ見ワ
タスミ

○うちく

ナイ
ナイ

○うらえふ

ヒタス
ラニ

○う

かくし

ハヅカ
シイ

○うんず

アイサウツカス
ス石川雅望云うんはうこと

今も東國人ハ物ふあきたる
をウンジハテタと云る

○うかお

男女小通して
童形をう

○う

らやこあし

ゴドウゼニ 鈴屋翁云我と人とのうをくらと
又うふ人のまされるうもをくら我と同ト云

をりて
とバチ

○うつこの人

源氏物語湖月師説云つても
ふる人とつふことあり

○うつこ

アイラ

うつこ

カハユ
ガハユ

○うまぞひ

ロツ
キ

○うらぶる

ガンニヤリト
シホタレル

○うら云

うらまびーうらかまーうらまーやまー
云のれのうらハ皆心中のことあり

○うつろふ

移入花紅葉ハハスガレルチル本草ハ
色ガハル人の心のカハルをも

カ部

居立てのけふ

カ、ツテ井テカ
セワヤカレル

○おて

率あア
ワレテ

○かざけ

坐したる
とけ

○かざりいづ

居去出く俗小
もつと廻く

○かふのろくしひ

田舎通じノ
スギハヒ

○かまちの

月居待
ちり

○かて塘

○かせき堰

の部

のくまゐる

ヤカニレウ言タテル
又仰山ニレタテル

○のど免て

レヅ
メテ

○のどかのどやの

レヅカオダヤカ
コ、ロ、レヅカ

○のふも

の賤

○ののがんかり

逃うるお
またしお

○のど

ま秋の日の
暴風

○のへふす

偃の字をよめるのへハあへん。
子ルへドまの如くしあふ

○おもせふ云

野モセバレトニニ
庭もせふの下ふんじ

木部

おろかカク
病ナ

○おひまどをる

行サキヲレ
ウレナフ

○おろす

我ハまたちもち人を。
あとふのこしとし

○おもぎしひ

小児の人見レリ
入オメするを云

○おもてぶせ

ツラヨゴシ
フダワイブン

○お

もておに 外ブニ ヨキヲ
おろかく 云 云 各別モナク云

おぢろけ 一通
おののぢ 各と回とメテテニ

おぢけし 飢けかーいふふだだた
おもふし オモクマレイ

アツカ ハナ おもふく 云 云 テニポノ皮ニオレツヨウミ
おもふたさ

ま ウテヌ 白ツキ おれ おろけてのつまりあり
おま タボケテウツヌカレテ

おれ バカ物おろ おれ ほれし おもひぐ

まかし 思ヒヤリガナイ 考ヘガ行トゾカヌ おふかく 分相 應ニ

おろか 大ヤウチ 何 おろか シレジ ヤウニ

おどろ 手ニシカウ ムザウサニ おどろ 仰山 おそ

おぞ ナ おぞ おぞはし おぞはし

おぞ 皆同と云て女の心づよくよあ〜きを云 おぞ 大ガイ一太イ 表ムキ一通リ 捉

おまつ サダ ヌ おまつ てつろと活らくと物るを定めて人小云 付るをも又心中小是快するゆをも云

扱の活侍ふ ○おぼしなずふ
あしとらふ 同格ニオボシメス
此歎のおぢふ

思ひふとふ相多ふ思ひ
おぢふを下ふつけてふらふべい
○おとすす
ゴザルガ ああ

をさらうす
おもさうあり
○思ひあがるあ
高うキチチ

モ
○おあままべて
ヒキクルメ
おあままべた

らずナらく
デナイ
○おぢええ
思ひまあり上ノオボシメシ
又世間ノオモセハク

○おぢええずず
思ヒカ
おぢええああ
同上

○思おももべべくく
存外ナ
おもももべべくく
大ヘン
ナコト

チシカ
ラヌキ
○おおぢぢざざらら
ヒト、ホリ表
○ああももりりうう
ムキチホザリ

かろらうらう
のらうらう
○おおよよすすけけてて
小児小づづ知知ヒヒト
チリテチユガツイテ

よよすすけけののむむふふ
オトナシヤカ
ニ仰シヤル
おおよよすすけけららぬぬ
小児のコマジヤクレタ

事事ををいいななぬぬぞぞよよららぬぬ
小児のコマジヤクレタ
をを判判すするる相相あり

ああいい
おおむむららいいくくおおむむららいいハハ種種ウウありありををああいいととハハ列列ををええ
すすべべくく災災難難すすべべききささ刀刀をを云云
オオモモシシロロイイ ススイイタタフフウ

○おもたぐし

面立しあり。外中より死心。面伏せのうらむて。面かこしくとつよ小同し

○および

及ビ
ゴレ

○おちどろ

大やうふるぶくー
あしぬうらあり

おほくか

大ザヤカエト
本小同し言へ

○おちどく

アトナウト
リレミラヌ

大どろの活語
ふるりしとこ

○おぼえく

おぼろめくあり
トボケガホスル

○お

おぼる上と
同き

○おろの

大らう持しとおろうつく
つまりておろうく物さなぐ

大テイ小しして。あまりこころぬゆんがれ
ハ思の心ももあるこ オロソカワロツコイ

○おろりあ

らず

俗小エ
小同ト

おぼろけあす

上と同とんナニ
大テイテナイ

○おこたる

病勢のゆるま
るをもい

○おこころ

フラチ
アヤニ

リブサタ

ブサタノコトワリ
あやま

○おきあびてる

聖徒文を急状といふと心得べし

あ

年寄ラシ
イコワ子

○大とものごもる

ギヨレ
ニナル

○大

殿ごもるおきそ

オヒルナツテ
鈴屋翁云。花の
ちるを嘆ちるといふが如し

○おもひごまふ

オモヒヤ
リガナイ

○おもひや

アかし

常にもつ心の外小思
ひうけをたすをもえ

○おやす

申し付
ルオホ

せ付
ラ

○おこちあふ

取ハカ
ラフ

○おびゆ

ビツク
リスル

○おぼつあふ

シカトシレヌ
コ、ロモトナク
マナドホナ

○おぢあふ

シカトシレヌ
デブアレナイナ

○おのま

ワレ
ラ

ワタリシ
ソノハウ

○おのづ

ワレラガ
拙者ガ

○おろづ

さそひいざ
あふあり。又

ソビキ
ダス

○おもひさまに

存念ノ通ニ
存ブレニ

○お

たち

フニコング
ハダスイデ
のれゆて馬
車より下り立ふたとへる御あり

○おも

やう

カホ
ツキ

○おぎのる

掛ニ
買

○おむひ及ぶ

ス井リヤウ
シアテル

○思ひ及びぐを

アテタ
ガホ

○思ひあふ

レウケ
ヨウケル

○おもひあふ

レウケ
ガツク

○おが

あす

ゴレウケシ
ウケラレル

○あそでたてまつる

オ装束
メス

○おもひあふ

色とサシ
ヤシラシウク
シキ

○四

○おうあ 老女ニ少女のをう ○あとお 年バイ

○おとあし むら ○あままぼし ナ入

○おもがく ハシ 面隠

く部

ぐす ぐハ具れ俱死入をつま物 ○くちいる 口入ルハ

○くもで 疎手ハ又 ○くづをる 朽萎れ

○くまがく 月の雲隠

す 齋す思ひこすハ心 ○く たてて人

○くはあ メイサイナ 隅カラ隅デ ヤラズノガサズ

○はをく エミラチガアカヌト ハギシミガナル

○く ニガクシイ ノコリ多イ ザン子ナ

らへぐし 下チラガドウト モイヒニクイ アヒテ

べづし

トリハ
レニクイ

○くす

佛汰クサイ
神サクサイ

○く

だくごーきさる

コザくトレタ
ドヒクハ碑

○くさる

だめサレアヒダノアイサコ
ハナレノツガヒノイヒクサ

○くーし

くハ屈くし
いふもれ

ルイ 肩身カスポケテワルイ

○くんず

窮ずハ困ナ
メイワラスル

ル コニ
○くざり

あまごらざらハイタクシナカ
くぐん人の如しとよるを如何とかく

も件ハ志家の心うてく
ざりともよめざり

○くれまどふ

愁傷の甚く
五箇ムチヤニナ

ルを
いふ ○くうづねたり

功ガ入
テ井ル

○くさむす

クサガ
ハエル ○くまや

是ハヤの時く俗ふソリヤとつふがと
又サラバとつふがと又コレコカ

とよひうらとく
バもあさるく

○くどもたふれ

孔子も狂く生八生ニ
タボケル義経記ニハ

弘法モフデノ誤と
つみまよひきり

○い何そび

ロテニ
ガウ

○くると

あくと

時夜
朝暮

○位みどし

座せキガ
ヒクイ

○云
云

くつづくる

めでらづくるまひらづくるの鉄皆
その物ぐるきをうりまーれを云

ヤノ部

やすらふ

見合ハセル
エトマル

○やぞ

スゲサマサツツク
コレガスナハチトリ

モナホ
サズ

○やど

屋外あり。
旅シユク

テイゼンヤレキ内
此ニツ本ハ列とあるが、
ツ詞のやうふ

るれ
ア

○やんずし

各別ナガがらあどのことふす
たるをよヨンドコワナイ
モダシガタ

イナ

○やをら

イヨウとくこつとくつよう
らぬまソウトソロリト

○やま

ぐら
物のモード
めをよ

○や

よひうくま
又おどろくま

○やおせ

ヤイカ
ノレカ

○やつも

原びて出ま時、軽く
し、まのり物よのふをよ

○や

つる

形のやせ裏ふるく又
カルイナリニナル

○やつし

黄一き
さま

○やう

く

段とソロく
イロくサンく
これハ様との字音

○藪原

野原草原
藪の字の心大

扱う多くア、俗小竹やぶをたくふやぶとつふ故、
敷の字をやぶとよむハ誤とつふ者あり。雅語をちやぶ、
却てあやまると

○や

まぶしの身

僧の自
ことな

○やま

心やま
きま

○やすか

キノ
ドク

やすかぬ

心外
ナ事

やまかゞ思ふ 心外ガル 心きス ○やよければ

ヨケイ アヒバ ○やぶのさふー 物思ひの暗ー やぶのさふー ○やぶ

さこの シワ ○やさー 恥カレイイウビナ 打アガツテ井ル ○や

さーむむ 優美メ カス

まゝ部

まいてまー ○まことや ホンニオ オリレヨ まこど

ふ とよ ○まほれ 云 ロクサマニ ○まろ 男

昔は自移詞とサーハゲとるあろとあり今の 世男あゝバ此方 女あゝバ コチヤ とつぶととー ○まろ

かす あろとん ○まむ カハユイ位ニ結構ナ

ハヅカシイ 目ウキ ○まかろ フリンヂヤハデナ風

ナフ 目見 ○まねる 参上スル サシアゲル メシアゲラレル 酒食あり ゴ着用アル 衣服あり

○まかる 行あり イタス トホル ○まさふー ムホ

まさなる小児の遊びもの
まさなるやうなるものを
○まがくが

ハ狂ハ狂
又禍又禍
○桃引コト
○云云
○云云
又常又常

同
○まぬぶ口上をききあつ小のぶ又物事の
○まめ有辨をききあつ小のぶ又物事の

シンジツ
ジツテイ
ま免やうんシンジツニ思
ま免やのヒコニダ体デ

小アリヤ
ま免だつトウジツニ
○まさりモチコム

何ノ
○まどふメイワウスル
○まどふタウワウスル
○まどふあまよふ

ハトホウニクシテ心
ガムチヤニナルあり
○まどふクルマ座ノ
○まどふヨリ合ヒ
○まどふ思ひまどふ

がろ人魂の形をあらはして面影小見申るをいふ
又行たき町へいりて又出る魂をいふ

○まつはるマキツクニタニ
○まつはるウツイテ井ル
○まつはるウツイテ井ル

オソバサラズニシ
タニウチサル
○まほふロクサマデハ
○まほふナケレドモ

○まぬミスル
○まぬ体デ
○まぬマタホ
○まぬカニ

○又の日翌日
又の年翌年
○まぬ源氏
○まぬ物語

蓬生卷小見えうり。乳母
のりお母のりお未詳

○まけどだまーひ

イヒガ、リ
デヒカヌ氣

まけどーろ

上小
同じ

○まほして

ナホ
サウ

○まかりやうし

イトマ
ゴヒ

○まろーひら

申レワ
ケスル

○まごくし

サウク
シイ

○まろーと

キサ

○まろーづ

井ル但一此方へ
来る小いふ初之

○まろーのが

る
参りのがらあり
アガル糸上スル

○まろーけの物

引出
物

○ま

まざり物

モテアソ
ビモノ

○まだま

ビマ
ロハ

○まのぞ

メナ
メナ

け部

けぞか

けさうげのけえ氣の字音小あづ。漢語と
自注小お通符合一たるく。以下の七条皆同じ

○けどほし ○けぢのー ○けぞ

ー
うとまーく 思え
るさかをつみ

○けあし

ホクーハハカク
ーのせーく

○けざやの ハツキリ
○けざやぐ 上の詞を

○けおさる オサレテ
○げふ ナルホド

○けじし テキハキト
○けむひ ヤウスソブリ

○けーねむ ケブラヒヨシラセ
○けやけ ケブラヒ

○けぢらめ ワカ
けどせ 襲ハ

○けーハあす ハ

○けいめいす 字音あるべし
○けーねとる 字音あるべし

○けあがる 逆上
○けちえん 指鳥のカケル

○げせう あつはま
○けふ まこらうす

○けぬ キエル
○けつ ケスツ

○けぬ シヌル
○けつ ケケたるハ

○四十七

ハあしハワルウモナイニミクルレウモナイとツカス事をも又將
ドて、よりけしきふをモツて、局係ニケレカチヌしと云心あり

字音あるべし 経営又致命かどの字をあて
これどことききこもまじし文字のいこのあ

キゲントルキマとケブラヒヨ
見テトリスヤウヌル

指鳥のカケル
ケウハツキリ

まこらうす
てまこらうす

ケスツ
ケケたるハ

○けささ

假装之ケシヤウ又慮
慕之。驚想カ。懸想カ

○けくら
きよらを

唱へよよ
て誤るる人

ふ部

ふりま
云云

ワザク

○ふりまけえる
ツフ

トハルカニ見ヤル
ふりハ發

○ふびん

不便の文字あり
フツガウナ又キノ

トウナ
不便あるふをツクハ
思ふん俗子ハ憐むん小
持

○ふるさつ
旧都
荒御

某実あり。おんをツクも
ハのさふれりあり

○ふつか

おつめん
トコエテ井ル持

トイハヤキんよ
時俗語小同
テニフナ

○ふさぬ

取撫るく
一カラゲニ
スルヒツクルメル

○ふさやの

フツ
サリ

○ふさに

タクサ
ニニ

○ふく

つげし

ヨクダ
ウシイ

○ふくい
とら

顔色のいとく
ろきをツク

氏又枕草
紙小あり

○ふささ

か

似合又
相應せ又

○ふ

くごむ

櫛けづらぬ
櫛のボウク
たちを云

○ふくよ

ブツ
カリ

○ふーめふある

レホトナ九 目ある

○あゝめ

く ツク

あゝく

バク 考の母をき又
を扇あつうふ声

○ふー

うへる

子カヘ
リスル

○ふる

感きて又
すつろく

ふるさる

ニス
テラ

ルレ

○ふすぶ

リンキスル
ヤキモチヤク

○あぐき

雪ノク
キブリ

○筆ころむ

カキゾ
メカク

○ふみきさく

踏ス
足ル

○ぬよそひ

船ゴシ
ウ

○ぬよそひ

液一ぬを
かるき

○ぬよどこ

船の洋る
をいふ

こ部

んおぢり

ゴ
ン

○こよが

各別十各段ノ
子ガヒヂヤ

○こー

子こーある

こめいしこえく

上と何い
るゆい

○ことなるあし

ナシノ申シ
ズモナイ

○こ

ちさー

ヤカマシイクダク
シイギヤウ山ナ

○こちさ

こちさ
風骨の

音之今ブコツナ
ハそれを音ふまゝとる

○こらむ

困むあり
クタビレル

○こ

ろつとせ

キヲモム
セイツカス

こころげし

ミニキ
ナリ

○こ

ろもで

そでこそも夜あれ
バ同一とをあり

○こくらこをく

評多
あり

○こしらふ

ナダメル 取ナス
スカス スメル

○こころこ

此度

○こゆ

越ス

ろす

コサセル ころんハこえんーむこころ
ま自然の詞をハ使我の詞

○こ

とまのし

トテモソノ
クラ井ナラ

○これぞこの

云云
コレ
ガカ

ノま
ジヤ

ろれやこの

コレガカ
ノまカ

○こつすはる

シヤ
ウコ

リモ
ナク

○心もとあ

待ドホナ 又物のナカありで満足
せぬもあり又格不つふとく
ウサ

心も有
心ナ

○このもかのも

もハ面あり
アソヤコ

○こつつけ

て
かろけ
カツケテ

○ことづて

傳言
ま

○こころあ

く

キヲタテル 用心スル
ケル 又常小つ小固ーきりも有

こころあ

キガエ
ハセヌ

○こがつ

コハ
ス

こがる

レコハ
ル

○こころを

サシテ氣モカ、ラズ
キ、タウモ思ハヌ

○もも那し

縦あきし 申レズ
ニガナイ 容易ナ

るんもありナ
ニノもモナイ

○ころろやほし

コメレダウナ ムシ
ヤクレヤトスル

○ころろぶほし

キノドクナ
イタクシイ

○ん短し

キレシ
カナ

○んばきふし

キニクハヌもジヤツきふは
ふとんと思もるもを去

○ん

づー^{ジブレノ心カラ}
ぶー^{の疾心}

○んのー

心ノウ
ラナヒ

○ん

小入る ^{ころろふあふと思ハるも今キニイル}

○こせ

人 ^余

○ことふ ^{ソヨ}

○こと物

外ノモノニヤ
ハ異なり別々

○ろのわど

コノセツ
此アヒダ

○ろのー

コトク
并サイ

○こまやの

メイ
サイ

○ことさーに

ワザ

○こと

云 何事もあはれ其のを取立てるものとすこと
云 俗小キツトヨイふと云キツトの心

○もにあさる

オトガメ
ニアフ

○云
云ころろわひ

云くノ
ジセワ

○ころろよせふきく

耳ヨリチノニ思フ
宇治拾遺不尺えた

腰居 ニカカ 井ザリ 著聞集 ○木居 カ 鶴の本小居

○こやささ ワザ ○ことささ サ びさ

トガテ セイ ○こやさ モノヲイヒダス 万葉及赤染衛門集 ○こさく

グコク トシテ井ル こちあををささとい ○こさく ふまけしをけし わさずとつがぬ

うつくし キガヤ ○こけむ コチガ ハエル ○こ

とふ ニシテ ○こは 老人のあと へたさ

○ん ハフレ ベツ ○ろ 成

くる 共小同 こあす こあすを つふ木を切 こあす 俗

○んげ 心中 おと つくる ○事

ぞと 何 ゆ モ ○ろ 雨 雪 あ と

の 稱 を う く 如 く ふる を ふ

え部

えあしづ

一通デ
ナイ

○えんえ

フウリ
ウナ

○え

んだつ

アギヲヤルモ
ツタイツクル

えんおちらして

の女

身タレナニヨクよそふ
ひしておとけぬると云

○えうず

フゾム 要の字此
字モトムとよめり

○えせもの

フラチモノ
ヘチモノ

○えぶの

古今長
哥にえ

えりり (留浮の身)
コボレブノ

○えさぬ

フガレガタナ
イニヨンド

てノ部

てあしひ

ムダ
ガキ

○てうど

具道

○てうが

く 調樂之樂の
あしし

○云
云てふ
イフト云

云てま

を ミミとい
へまバ

○てうず

諧するこ
調するこ
衣服を
シタテル

○てうづ

つ プチヤウホ
フ手椎

○てさざり

テサ
ハリ

○てあめ

給任
ニ

○てう

○てずさ

手ム
ダ

○てもたゆく

手ノ丸
イ位ニ

○手もすまふ
手モヤ
スメズ

あゝ部

あゝ有時ハありのすさび小ハ存生デ井ル之哉
思ふ人ハありやまゝやとハニメテ井ル

○あぶ

すはあ
かま

○あさけ朝明

○あさいアサ

○あゝがふあゝハ争ふのあり小同
かちへー

○あま

て云親ニなること俗小云同キるあり又
云ワバエルホタエルの心もありあまハ甘なる

○あ

らま行末ノ
心アテ

○あゝかどめアヘビロカ
ラカ子テ

○あそびがさきアソビ
アヒテ

○あ仇々ときき又人々
秘する魚人

○あごうハゴのさまたげ
実のふく末のとほぬ

あご人レヤウ
ワル

あご物毒の如くたふさ
くもろきおん

あごけウハキラレイ
イタツラニイ

あご免く上と似
る云

○あざしんアザゴ
コロ

○あ

いざれあまの
様と注せり

○あまセハチ
イあり

このあま
う。赤洋

○あさる

レフヲスル本ハもの餅をふるふし故
に地ヲアビヤケテ物ヲサガス山も云

○あさくひ

コシ

○あふづち

メツタム
シヤウ

○あ

ざる

ザレルシヤレルあさけるあざむく
あざあふあざふのあざは同一

○あざむく

マダ

スアチ
ドル

○あゝのゝさまに

ツイチヨウトカリソマニ
4ハハハのあさるふあり

あゝめもせん

メヲハナサズ見テ井ル志バーの夜よそ
へ目をうつれをあゝめとつふべし

○あふのは

シイノうまびす
あきを制す

○あゝつけし

ロツ

ツコーフジツナ
あひくはあり

あをののに

キナレニ点しや
のあゝぬさまに

○あハ

あを

ウミ
カナイ

あをむ

サ
スル

○あちきお

ムヤクす
ヤラチモナイ

○あまびこ

天人山彦
とハ列

○あいきや

愛キ
ヤウ

○あさむ

キヨウサスアキレル
感するゆもあさむがる

あさま

キヨウノサスネチ
ヤアキレタるチヤ

○あゝす

ソデ
ナイ

イ、ヤナン
デモナイ

○あふさざるさん

一カガヨケレバ一カガワル
ウテとらふふの初あり

○あふりりりく

オハハラ
イタク

○あてあり

あ

てをかあてやあ

ウチアガワテ井ル
キヤレヤナ品ガヨイ

○あふ

る オチメ
ニナル

○あづー

ワヅラウ
テ不快

○ありくそ

ダシくトクラシ
テキタ其アゲク

○あゝん

ザニチニワ
クアコリ多イ

○あひ

あー

ナンノヲチモ
ナイコガヤ

あひふく

ナニトナウムサト
云ナニハリ合モナク

あひふれこ

アテニモナ
ラヌ心アテ

○あや

ザマカワル
イニグル

レイフシギナケシカ
ラヌイフウナ法外ナ

あや

メイヨニニワシギニ
云キドクニヘニナフデ

ケシカラ
ズキウウ

○あふ

古へあやとも云後小ハあ
らヌやあくと云ヤク

○あふ

ア

○あへず

エ持コ
タヘス

○云云あへず

云ハシマ
フセズ

○あふ

チカラカオキタラチガアカヌセシモナクハリ合
ガナイ思ふふあふをフふひかく思ふ時の

こころの
さま

○あへなく

いとこのくそおそ
かあふよまたまこ

○あふ

アソくハシヤレ
アツハシとよ俗語ハ師感心する

悲しき時又ハ感心すると此の發語今
アツハシとよ俗語ハ師感心すると此のあふれあり

あふれ

上の發語を轉して、悲むべき事、憐むべき事、又
ハ、敬すべき事、感ふべき事、をさして、
○あ

まがし
キトクナメツタニ
ナイガフレジヤ
○あざろ
アウタ
あざろ
退散スル
あざれあ

あざれハゴタイサニ
○あゆ
アヤカルあえ
○あえお
アヤカリ

イ
○あせま
ホよつハ常あれど、色のきめぬふも、んのかハ
らぬもつり、んも色も深し、
○あざや
ハツキリキツカリあざや

○あや免
ワカチあやハモヤウハ漢語の文章又文理ハあや
ハムチあるとの、さうハヒロウチのふたが如き

あやめもろくは
ツクシラテ
ワカラス
○あやあ
マイヨイ
チワルリ

○あや小くは
○あむ
チワルリ

あざれろり
上と同し細てあ
れろりと云が如し
○あとい
キハ合せ
ヤウス

あさ
アサ
ツテ
○あさ
○あさ
あさくして、
ふ不きあさるふ

あざれろり
上と同し細てあ
れろりと云が如し
○あとい
キハ合せ
ヤウス

あざれろり
上と同し細てあ
れろりと云が如し
○あとい
キハ合せ
ヤウス

あざれろり
上と同し細てあ
れろりと云が如し
○あとい
キハ合せ
ヤウス

○あゝつゝ

レカヘシ 宇治拾遺云今俗
アタシと云ふも師このことなり

○あゝた

まる
レシ規ニ
カハル

○あふゆく

エシ
スカシ

○あきれ

て
トハウニ
クレテ

○あつのはし

ムツカシイ アツクロシイ
ウザウザトシテウルサイ

○あひこちか

世俗小 アイタテナイと云ふ
れあり 源氏物語孟津抄の扱

○あ

やまら
ミソコ
ナフ

あやまらざる
云

ニナガ
ヒナク

○あ

やまら

源氏権柱いとくはん地もあやまら
る 地をこまふと云ふ小田

○あやの

る
あゝゝ 寝及するを云ふ あやハ 福津 目を
あやつびともいふあやのこころあり

○あがり

垂
代上

○あけぐれ

あけんとしてハマづく
らくある空をいふ

○あ

こころ
あくづるといふ思あまらして魂の力をいふ
スハ勇の力をいふあれてまどいありく扱をいふ

○さノ部

さへらふ

オチブ
レル

○さるハ

サテツ
レハ

○云
云

其上云こ一デ
ス俗語と同意

○さゝぬ云

不避ありえさゝぬとも云
ヨンドコロナイニ
○又さあ

らぬく
其外ノ

○さかづら

カシコ
ダテ

○さくづこ

まのめ
ころの

ふちり サシムカヒ又ナニダグムを
もつふ是ハ涙を省きたる義あり

○さいなむ

折檻スル
シカルセ

ガ

○さだ

定まり
コレハシ

○さどすれり

程ガス
ギタ盛

ヲコ
シタ

○さふらふ

井ニスル 伺候メ井ル 御前ヲツトメル
本ハさもらふ事ニ見合セルといふ俗

語の心ん夫よりして所用もあらんかと伺候して居るゆふあり又
特して目上へ對して我身の居り有りとゆふをいふゆとあり後
ゆふ有りといふは
用る様ふあり

○さくづこ

さくづきてと滋く
初字音をたか

せとるく
装束スル

○さばら

装束のすくちりよ
むらあるを云

○さく

ちり

勿論
チヤ

○さく

事改メテ
又子カラ

○さく

云々
のさ

のハニニナラヒツレニツ
ノタクセ

○さく

物ツひさがかりハ
ロガワルイロヤ

カニニイ
子供ん心さがふきハ
意地ガワルイ

○さく

俗小サ
クズル

又コニシヤクシタ
どうありずしてまづりてぬり
とる心の心をつ

○云
云さ

れむ

春されむハ
タナれむハ

ハルニナレバ
タ方ニナレバ

○さく

ヨモ
ヤ

○ささりやの サツハリ ○ささるま 云 ワザト... キツト...

ふりこえと さびしきあり一事なぬ ありてさびしきと

○ささま ヤウタイ又今の俗人をさして様といふるハ屋形様 公方様あといふより終りさる廻りて古くハ増鏡九二

西園寺様と見えたりハ様ハがえ様まも様又通勢 ○さー

すれり 出ス キタ ○ささの カシコイ又サウジヤと 詩すさうありこ

れハさハちうめて サ マク ○ささめ サ マク

サヤ キゴト ○ささくやう キウコリ キヤレヤナ ○ささくが小 マモ ニツ

とも小さくのま ○さ ミ さあふん ○ささづれ さも あら

をあれの物アあり ○ささうどく いそぐさまとささうハ 騒ぐどくハどうの活

らきたるありどろハラウの散え大らうを大どろともつひ ○さ サワツウ

てさそ シテド ウヂヤ ○ささぞ 云 俗小云 ささそ 云

さぞのま小回 カヤウニユソ のまあり ○さすの 俗小云 心小

らぎ。本ハあうらうまづらと同一類
うらうらとをあらうらうらとサレドモ

○ざれて あざこのあを省
きざらうらとを

レヤ
レテ

ざれむむ

アゼヤ
ラコイ

○さよ

更深

○さぬ 男
女

ともぬするを云さよさぬの
おのさハまゝと同意の如し

○さわり

サモツカ
故障

○さ

いっころ

辨つ頃あり
先ダツテ

○さるやう育て

子細有
テ又あ

も云
る極と

○ざえ

學問藝術
の字音あり

○さかく

張らるるきぬのまの
さめめくをりふ

○云

さる物ゆて

ハハ勿論ノ
ノケテオイテ

○さむくのア

ソレホド又ソレギリ又形ノ如
クノ一ありゆてまがくのをま

○さま

よふ

ツブヤキナガ
ラブラツク

○さを

正音あり
マツサヲ

き部

きこゆ

申し上ケル又申し受テとつよきをきこ
えそとつよ。源氏あげよきふええ

○云

きこゆ

云こーちちとつよは同一俗ハカアガ申ス
又上ケマス トメマス あとつふ申ス一ス
オ通申ス
ふ同ト

○きこゆ

際こー目立テキツトシタ
る。又ハキクトハキツク

きハヤ

の上
同し

○ききハ

身
分際

○ききりくし

美
立派ナ

ききりめく

ハ
スル

○きよら

キ
イ

○き

らよ

き
アラソフスレル

○きちふ

ハリ
ア

○きそふ

上
同し

○きびえ

幼
少

○きこあむ

イヤ
メル

○きこえん方あー

何
ねがナイ

○きすく

あり

すく
ツンヤン

○きよまは

清
スル

○きやうざく

「
の句のよ

物事
きり

○きこえい

あむ

御
申ス

きこえんかへき

○きこえ

れご

カ
シヤウ

○きげん

機
アヒツガフ

きと

云
云

○きえの

へる

死
ニ思フ

ゆ部

ゆえ

云 カナラ

○ゆあひあ

ひろく

○ゆ

きかふ

行かふ

○ゆふつけて

日暮ニ

○ゆ

ゆし

大切ナルヲ 大ソレタルヲ あやふきふをどおぼつふ本ノ忌
忌一ありさるゆえふいよるきんもあり又すがれたる

ゆもも云時
ヒドイ エライの心まり

○ゆえづきて

ありてと

ゆるづけて

ゆえづ

○ゆるづし

ありてと

○ゆくて

トホリ

○ゆるらむかふ

ニ

○ゆ

くりふく

思ヒガケナ

○ゆえ

又ありて

おこな得のあ

○ゆるの

ユツ

○雪和の志

る白

雪ガアキレハ位ニシロイ

○夕をえ

花よても

も夕方小色の

○夢のたぐら

ユメ

○ゆする

髪あふ湯ゆするまわ

とオグミアラせラレル

め、部

めざまし

心のうきまき目のさむる径のうきまき
アキレルイカニレイシニゲワイナ

○月や

まー

見ふくかぬ
ムナシガナイ

○めやまぬ人

ニグルニ
カラヌ人

○云 云めり

下ふつくてふさく
ヤウスガヤートトニエル

○めららし

一方よりおをふくく目まで
又こあをえくく始るまう

○めでたし

クワカウナ
ウワクニイ

○めくハき

メニゼデ
レラセル

○めー

きーの

○めづ 愛く世貞説
ニカモフ

○めー

カテナカ
カル女中

○め

牛不後つゝる

著聞集よ又えさうりあふどくゆんして
ふふあひさるたとへたりカヒ犬ニ手ヲク

ハレ文とて
ふゆるさふ

○めもあやかり

すぶれて準嚴あるま
手器のえりあるをも

云三ルモカガ
ハユイ位ガヤ

○めぐるめぐるふ

存生ゲ月日
チ立テル

○めもはるふ

目も遙く見渡したる
かぎりのできを云

○めわれど

めかきせふ

目ハナ
サヌ

○目をそむむ

不和ふ
る中ハ

顔を見合するゆふく。例
目ふのこころをさるふ

ミナ部

耳やすし
耳ふんのおちつくをりふ
ナイ評判ギヤめやすしの数し

え
御奉
○えやび
風雅
○えやびを
風り

○えやびのまり
品ガ
○えぞのし
位のき

○えり
極光を腰膝
○えりし

子細ラ
シイ
○えづ
ピンヅ
○えをやす

ホメナグリナ
ガラ見物スル
○えおくりす
聞及レダ程ニモナク見
テハアイソガツキル

○えがし
ラリギヤミラチモナ
○みド

ろく
身ゆきする
○みくのしほし
ヤカマ

○えさを
行儀
○えさをとつろ
キツト守

○えさを
ジツトシラ
○えを
水

をつく

舟ノ通ルシル
シノ棒グヒ

① 舟をつく

イノチ
シマフ

又ハ世のかぎりとりふよ
同一 一生ガイ 死ルマデ

○ こがら

水が

○ こが

〜 ねむる

活主ノホドヲカ
ウガヒ申ス

○ こさ

宇治拾
遺物

ふ声又衣の水
小ぬる負

○ こま

田小水ヲカケル又
庭など小せき入る

を
云

ナジム 源氏紅紫賀又
ふまき小とあるハ足つ死づくハ住つくハ

〜 つか

○ こお

コランジサダメヲ

○ こけ

ゴゼシメ
シアガル

○ こ若

俗小ワカ小
又見ル目が

笑止デキノドウナ
いふまあるるあり

○ 身

出産するあり
身ニウニナル

○ こそ

ナイ
ミツ

○ こぶ

皆ふが
ノコラス

○ 水

せき入る

川をせきて水を流
れ入るあり

○ せ

道モロ
バシト

道一パイニ
せ野もせと

志部

あめやの

シツトリと作するハ人の有ね。ヒツソリ又
シツポリと作するハ時并あり

すもハゴと
こざちり

○あまらうごせ

カゲ
グチ

○ある 俗語の
この外

ハカラフ まとシハイ
スル 領知スル 等のま有

○あろず

俗語のまの外ハ力
マハ又とつふとちり

あり俗もモカシラ又
ふどつふ時ハばまちり

○あづんあし

あづんき替なり
せハシナイ。キ

ヅカハシウキ
ガユルセヌ

○あろか

シツカリ本式又
いのめーたさ

○あれの

カクスカクセルコラヘル又思ヒダスロヒシ
ガルシタフハニつハハ

○あれ物

バカ
モノ

○あづく

水中小漬ル
こちちり

○あどけあ

取シマ
ラヌ

○あふぬ

あふぬきあり。字音あふぬくして
不ふをまへて和語のそくあふぬるハ

装束するをきき
どくとつふ敷

○云

此て小んのまハたろハさ
折ノキム云ハ折モツラ

ウニゴレナヲリニサシアハ
セテとつふやうなるま

○あろむ

物るまさだろ小え粒
むるや又ハたろん

とろとろのつるまをいハ徳の字をよめるハ兄
きハむる方えあろハあろかのあろちり

○あろらあ

す
シモツ
ラカス

○あろむ

チムム小児の陰をまぐとつひあろ
らとつふあり物あるは同まちり

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

○志兼ていひ思ひ

ひ部

ひとすら

ヒトスラ
ムシヤウ

○ひとら

ヒト
スダ

○ひ

とら

ひとらともあり。肩ともあり。又人笑をせよともある。不外聞

○人た

のめ

ヒトダマシ人を殺す思ふ。もろのこるをよふ

○ひぐらく

はを動かす。口タク石

川雅望云。ガをうごかす。ゆもつみあり

○ひとぶるに

ヒトスダニ
ムシヤウニ

ひ

ふるん

一筋ニム
イキナ心

ひたぶるんある物

ムホフモノ
ワサウナ物共

○ひきざし

丈の封のめ
のち

○ひとらじ

外聞
ルイ

ガル
レイ

ひとふく

ヒグルレイ。上小似る。刻ぐ。れハ。姿形のこをよふ

○ひと

ざこ 一段

○人たえす

人ソバエス
ル 枕草紙

○ひと

ひとり

トチラゾ人
タレソヒトリ

○ひのもの

ヘン
グツ

ひづひ

の

ヘニナタ
チチヤ

○人ぎやさ

世間ノ方モ
ハクガハツ

イカ
イ

○人げあ

身スボ
ラレイ

○ひとあ

引るをよ
こことん
○ひそむ
貞レカメル
ベソカク
泣
○ひ

くやごも
△レヤウニ
引コモル
○ひと
カヒ
ハギ
ひと

た
上小
同
○引
まさぶる
引うか
くろこ
○ひと

つむき免
獨ム
スメ
○ひざ
非常之
法外
か
るすも

○びさ
美相あり
之優美
の風のありあり
○びん
あし

フツガ
びん
あし
ラフガフナ
び
○ひ
まき
つ
ま
る
ゆ

や
の
よ
の
あ
き
ま
ま
○ひ
す
ま
石川雅望云
よつれたる物を洗ひ
又ハ浴室あしをも掌る者
と想ハ

禁秘抄
ふ
又え
○ひ
つ
ビツタリ
ヌレル
○ひ
し
と
云
ま
き
び
云
し
く

ゆ
ち
こ
あ
き
ぬ
び
し
と
ん
ふ
か
も
あ
ど
つ
ふ
又襖の袂をひ
とさげあど云
こ如同意
○ひ
し
く
足
音

の
ト
り
く
と
す
○人
や
里
我心より
ハせん人
は
ひ
う
き
ま
く
を
つ
よ
○人
や

ア
ま
あ
ぶ
び
我
ん
う
ら
あ
し
人
の
あ
し
ぬ
る
を
あ
○ひ
と
く
あ
ま
同
格

○ひ
ま
ら
か
よ
り
ま
き
板
エ
ウ
子
ナ
○ひ
ら
し
ヒ
ガ
ナ
一
日
○ひ

といひ グイツ ヤツ
○ひととせ 先年
○ひとと夜 先日

○人が 俗語小 同
○ひとけ バツトメトリ

○ひ 直のさしむらひ
○人小 バツトメトリ

○ひ 直のさしむらひ
○ひ 直のさしむらひ

○ひ 直のさしむらひ
○ひ 直のさしむらひ

○ひ 直のさしむらひ
○ひ 直のさしむらひ

○ひ 直のさしむらひ
○ひ 直のさしむらひ

も、部

も アルヒハ 又ハ 漢文読小
○ 漢文読小

ひ シモツ ラカシ
○ 漢文読小

○ 漢文読小

か チノア カ又
○ 漢文読小

○ 漢文読小

えと

カクイ テオク
ひ め
○ 漢文読小

○ 漢文読小

○ 漢文読小

○ 漢文読小

○ 漢文読小

○ 漢文読小

思ひまれる人

物事ヨウガ
チニシタ人

○云

云、もの成

り

ラガ

○ものす

何スル何と定めざる。前後の事体小
て人のおづらう心得らるる。組一國小よ

アてハ今小て
も物とつふ

○もの

左様小ハあがま。きこむを。と人
を恨むる。定の詞。イカマシイ

ドウヤラシイ

おーと愚ハキザハリニオモフ

あり。物ーと。らるる

目ザハリニオモフ

○物

モツタイガアル

ゼニメガアル

○ものし

心ガス。マ
又イヤキナ

○もの

むつこの

ムサクサト
シテ井ル

○ものわす

サイツ
クスル

○ものけ

ゼニメガナイ。位
イ。お。し。の。く。

○もの

けて

人の事を。つ。時ハ
つ。時ハタシ。た。こ。つ。ハ。シ。ン。テ。又。ハ。モ。チ。コ。ン。テ。我身の事を

○も

どく

ア。テ。ハ。ナイ
ト。批。判。スル

○もどか

イカ。レ。イ。俗。小。ハ。ラ
チ。ガ。マ。カ。ヌ。ハ。ガ。ユ。イ。と

つ。つ。小。の。さ。つ。へ。ど。
そ。れ。小。か。ぎ。し。奴。詞。く

○も

子カラサツ。バリ。漢語の全小
あ。こ。ま。り。き。の。字。を。訓。ハ。あ。こ

す。ら。○もぎ

本。花。や。枝。葉。を。も。も
が。れ。た。る。本。あり

○もれ

あ

ロ。ガ。ワ
ル。イ

○物あ

チ。ニ
ジ。烟

○もろ

ともも

トモ

○もあふ

ニツタ
タナカ

○もみり

ナシヅノ
タナリ

○物のひめ君

ドコヅノオ
ヒメサニ

せ、部

せ、のい

バレヨ世ノ中
世間一メニニ

○せめて

俗云小同きるもあふ
又近くせまらん又ちひ

てがせうう出
ス人もあふ

○せくらぎ

小きく浅き流れ
あり

○せ

ゆゑんせ人
と云ふ

○宣日がき

代筆 俗小オホセカ
キと云ふもあふ

○せ

生

○せらに

シキ
ツテ

○せ

川の瀬小巖へて 場所時
節等をいふ事あり

○せんすべあ

シカタ
ガナイ

す、部

す、ろく

ワケモオムサトシ
タマヤメウサウチ

す、ろく

ムサトメ
ツタニカ

モハズレラズそろ
と本八回のはべり

す、ろく

あまうりメウサウふら
あまがーをちらふん

すゞろはし

△サトア
ハレナ

○すまきくし

ス井キヨ
ウラレイ

すれのはし

上小
同

○すまきこもれ

好色人 風流人
すべて物ずれ

ある人
をふ

○すまきこも

ス井キヨウワ
ザモノズキ

○すく

色ヲ
好ム

○すれたるある女

色ギガアツテ
ジダラクナ女

○すくよの

くよけり
ツシヤレトレテ井ル
レヤツキリトレテ井ル
氣丈ナ人の心
のてはききふ又ハ山のけはしくきりしをたたるやうあるをよも
す
レツカリレヤン
トレタルキレワ
○すくく
ズン
スト

○すまのふ

レリゴミニソレタイスル
入隅を小角小取て
人をこばし敵對するんハ俗小もよ相と

○す

のこ

板縁 上古ハ箕子あり一版小さ
うぬ世小ありても物よあり

○すまふ

ルセ
す

さび

ス井キヨウ
ナグサニ

○すさめげ

賞説せヌ 駒もすさめげ
かる人もふ一又人小足す

てられさるるをすまめられ
子と云ハ後小好トたるま

○すげあ

ムタ
イニ

○すまきく

次とこガクニ
シユクニ

○すさまじ

不與ナフ
キゲンナ

モノスゴイ
セハレナイ

○すまきくし

テキハキ
キツクト

○すまがや

の サツ
ソク

○すじし
オソロ
レイ

○すれかげ
透間より
スガリ明

アノ又ハ籠ぢどより足
えすく人うげともふ

○すくせ

宿世ノアトノ世
因グワシマハセ

○す

やつ 其奴の特ニ又特
トてちやつと云

○すげむ

は折すけむハ老人の
歯のまむらふを云

○すゞく

冬蟲の草木小とまり地上をあさる
たぐいをふム
ハイクワイスル

○すあハ

ち 即座

○ずんちがら

盃ガニハル
ずんハ巡ル

○すむ

妻と
すふ

人の家小通いとまろ
ぬを河某すじいと云

○すあどり

魚殺
生

○すべて

一同ニ全体
ツウタイ

○すけて

○すべす

スグク時辰を
すべりおき

てスヌク たくかの肉
負をぬきすべしと云

○すべ里いづ

コツソリ
トイヌル

すべ里い

る ソツト
ハイル

○すべか

せんすべか
きえ
コマル

雅語譯解

近刻書目

離屋餘本先生著

雅語譯解拾遺

嗣出

同

王小櫛補遺

此屋大人乃源氏物語の注釈のものを
るを補へるなり

同

言語四種論

之評乃口説小列まてて
傳あり

同

離屋學割

學問の大意を附等をせむら
る書あり

加藤殘足先生著
校異土佐日記

此中異同を校訂して傳後并改書と
くしる書あり



雅語譯解拾遺序

於末のうらうらとある雅語譯解拾遺序



書はうらうらとある所のものなり

うきものなりとあるものなり

あやうきものなりとあるものなり

人のものなりとあるものなり

まはりのありこころ久華堂のらきしこ
解解はあつていふ字はあきいふと世よ
あつていふとけをいふのらきあ
とあつていふとあつていふとあつて
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと

あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと
あつていふとあつていふとあつていふと

おこして申すあまのりかゝるもよかき
ふらちのちかきしけしとせよかき
るるもよかきしけしとせよかき
かきりよのちかきしけしとせよかき
ふらちのちかきしけしとせよかき
便し解してよかきしけしとせよかき

そのちかきしけしとせよかき
さそもよかきしけしとせよかき
いふあふのちかきしけしとせよかき
よのちかきしけしとせよかき
さそもよかきしけしとせよかき
いふあふのちかきしけしとせよかき
よのちかきしけしとせよかき
さそもよかきしけしとせよかき
いふあふのちかきしけしとせよかき
よのちかきしけしとせよかき

何てぬまの志を邦一としてくちやいぬ
たふしのく席あやうのききき掃あひ編と
古言解解く字はをせもいさむいさむ
おととくくやうもはくかむいさむいさむ
くよまう埒くせあふまをたあふよとそ

あぬ五十年正月年 村上忠順

雅語譯解九例

今の世乃俚言レビゴトを俗語あり。古今集以来乃款。
又を詞書の統。又を物統ぶとあどの。今乃世に
耳あれぬ詞。或を詞を回ドけ然ども。意ぞえの
又あはあどハ。雅統あり。茶茶集以上。古記從詞
の類。又古事記書紀小あふ。尋常ヨソナリの雅語よりも。
和耳き記詞を古語あり。是を古學乃清光師の
注釋よりて。古語譯解とつふものを列小甚ハ甚

産し今あげたる雅語の中ふえ此古語のこのハ
らぬもあり又を回し廻るがう老の轉りたる或
ち文字ごゑ吳國語カラコトのまど里たるあど古語よ
里んれがまことハ當時の俗語あれども今より
これぞ雅語ともいひつべし

○譯とは此特傳を今の俗語小あつるをいふ
里一つ傳小傳あまこあるも有り又をあまこの
語の一つ傳小傳カッるもあり

○解とは傳して明しつゝ盡しがこと所
をぞ注釋の廻しつゝくを云

○解より譯の便より記するは師の古今を鏡
小傳せしれが如し此書ハ遠鏡小本づきま
とを傳は師乃注釋小しつゝ譯解を兼用て
特語を部族してカス持討小便ありむ特文乃
書を又受て人参考の助けとあざりもあ
し

○此書活語ハタラキコトを多く載せて、名目の語をバ多く
を省けはハ名目乃語を、注釋をぞ小見を、よく
あふ、終て紛る事も、形かたちのるべけれど、活語のこ
ころ、ぐえを終らそ、く、新小、詳解を加へさ
ま、だ、細こまの小を、曠くわうと、かとき、あ、あ、う、す、べ、て、耳、ち
か、此、詞、の、あ、う、や、ま、現、ハ、大、方、も、ら、う、一、つ、
○詞を、集、る、次、弟ツイテイハ、いろ、は、を、用、ふ、便、アツ、い、と、ら、け
ま、を、あ、り

○詞を、標め、る、に、ハ、す、う、と、な、る、本、語、を、あ、る、に、ま、さ、し、
お、れ、ど、譯、の、後、勢、あ、ひ、の、こ、ま、あ、る、盡、く、ま、さ、は
得、あ、る、に、い、の、部、小、い、を、け、て、と、あ、る、一、て、い、た、く
と、は、あ、げ、ざ、る、の、如、し

○す、べ、て、詞、ハ、俗、小、同、一、く、て、意、の、異、あ、る、小、ハ、こ、中、
小、ん、を、つ、く、重、現、わ、ざ、あ、り、又、一、つ、詞、の、内、小、俗、語、と
同、意、あ、る、と、異、あ、る、と、あ、る、也、異、あ、る、方、の、こ、を、詳
せ、う、い、そ、ぐ、小、シタクスルと、詳、を、つ、け、て、俗、小、い、そ、ぐ

とりよと回ドことある方をいなきさるるの事

○古今雅俗ふりこつてたづぶるおしく、ままどハ
一たるあた廻多し。そハすべてあげせ

○譯解の思ひふりづこきハ暫く後の考へをま
ち或を廻乃又おとす。それさるも多のるべけれ
む。それさる後の補ひをまつあり

○初學ウキナガの人雅文書ニギヒコをよむ時此書をを借おきて考
へんハ脚とぬる事あり。若雅文を

のんとして此書抄をとりて授とせばたづぶ
る多のほべし。すべてこやむの細りあるんぞえ
き。譯と解してそ程う記まへがこくさしし難き
事乃多かるをそそきたる雅文を熟ウケくふとく
又てそある様ふよりてぞんぬもし書も一つ
登記トキをさありけり

○今世れ假名書ナニののちづのひを大方誤り多けれ
ぞ。は書と引合する小正しれりなをまゝでハ



かおをえゑの教たがふ事あるべし。初学の人を。
古言様。雅言假字格等ふとめて。假字をたぐす
発

鈴木腹

雅語譯解拾遺

村上忠順



イノ部

いろにいつ

カホツキデシレル

○いろともきつり

空物語 俊蔭巻

の エリキラヒナキ
種々の物をつ

○いろめく

好色ノク

○いろあさき

禁色をゆり
さるく幸へ

○いろもぢくあ

驚きおそれ色と
失ふ幸あり

○いろひ

て セワラヤイテ ○いもある イヘル 世ニイフ ○いふーいぬる

サンヌル ○いふーい スギタ年 ○いふーい 伊フモ コト

アタ ラレ ○いぶよのつね イハビヒナホリ ○いぶえふ イフテヒバ イヒニクイ

○いぶい 土産 ミヤダ ○いぶい 家作 家作 家作 ○いぶい

高家貴人 ○いぶい 家風 イツカタタテル ○いぶい 出家スル

○いと イカウ エラウ ○いと イキバイ タハサヘ ○いと タハサヘ

○いとあー セワレキク イツガハシ 新撰字鏡小徳徳位々也須年 世念志又押止奈志とあるふより也バ前篇小暇あきこと

注せるいひが ことあるー ○いとあー イツガシイ ヒマガナイ ○いとまある ヒマナ

○いとあー テマガイル しまるんま しまるんま

ヒマニアカシテ ○いとあー イチラシイ カハユヒ

ミカネテ しまるんま しまるんま キノドクナヤウスニ

○いちむやる キビシイ ケハシイ ヨリツキニクイ ○いりあや

マヒカヘス 河海抄云舞

有取綾手故云入綾

〇いりもむ

俗にキラモムと
いりもむに同

いりもむ

イラヒドイ

まる

いりもむする風

キビニイ風
マヒカゼ

〇いぬむ

しり

築地と堀との
間をよ

〇いぬふせむ

佛前の
格子を

〇いぬ

けいりけあ

まきあきとも又ものに思慮あきとも云
ワキマヘガナキ トウガイニラズ

ビツクリスル

〇いりけ

〇いりむらり

ドレホド
ナニボホド

ドノクラキ

いりむらりりり

カギリモナク

〇いり

ドノヤウニ

ナント

いりふぞ

ドウソツ

いりふぞ

ドウジヤツヤ

ドウジヤ

ドウソツ

いりふぞ

ドウジヤツ

いりふぞ

イカニシキ

ドウデアラウヤラ

いりふぞ

ドウジヤツ

いりふぞ

トウ

ナントゾシテ

いりふぞ

ドウシタナラハ

いりふぞ

ナントセウ

〇いり

ドウカ

いりふぞ

ドウセウソツマヨ

いりふぞ

ドウセウ

ナントマアセウソツ

ドウカ

いりふぞ

ドウセウソツマヨ

いりふぞ

ドウシテマアサウハセウソツ

いりふぞ

ドウモシカウカアルマイ

いりふぞ

あふむ

ドウシテサウハセウソツ

〇いり

イカチク

いりふぞ

ドウシテマア
ドウゾシテ
ドウシタトテ
ドウシテマア
ドウモタ
ドウヤウナ
ドウ

ナリトモ
〇いろおりー
いろおりなむ
〇いろおりー
いろおりなむ

いろおる
ドウイフ
ドウシタ
ドウヤウナ
いろおる
ドウシタコデ
ドウヤウニシタバ
いろおる

らむ
ドノヤウナ
ナントアラウゾ
ドウテアスウカ
ドノヤウニアラウ
〇いろめー
〇いろめー

ギヤウサニ
ネニイレテ
〇いろおる
ダイジニカケル
〇いろおる
〇いろおる

ヒマ
エキモナイ
ムザノト
〇いろおる
ヨウニタハヌ人
ムザノトクラス人

媛
ヒトリ
ムダニネル
〇いろおる
ムザノトクラス人

〇いろおる
ツカレ
イタニシヨ
〇いろおる
〇いろおる

お記
スミク
マデモユキワタル
〇いろおる
〇いろおる

ま
イラツ
イキセキト
〇いろおる
〇いろおる

アワテフタノキ
コシラヘスル
〇いろおる
〇いろおる

又ケメナクセイダス
イサニスハシテ
〇いろおる
〇いろおる

シヨツセイスル
イソー
イソ
〇四

くき

ハゲレウツトソル

くき

イツデモ
カウハ

アラウ
ケレド

いづこハあれど

ドコデモカウハ
アラウケレド

くき

くき

フダニタイセツニスル
タイセウニトリカツカフ

くき

ゲギウニ

くき

くき

イツデモ イツトイフ定リモノナク
イツモ イツトカギリモナク

くき

ドナラ

くき

トナノホウハ

くき

トコヲアテドニ

くき

イツノマニカ イツノゴツ又
イツカ早ウと得意ナリ

くき

マダカ

くき

イヤツク
イヤク

くき

イヤク

くき

せとち

上カ
全ジ

くき

ヘンジスル

くき

ことへき
サぬ

くき

イヤナスチニナラ
カトオモフ

くき

受戒
戒ラサガル

くき

くき

達人
ゲイニヌル

くき

ナホド
イカホド

ドククラキ

くき

ナホドノマモ

くき

イクヘン
ナヘン

くき

くき

ナホド

ドククラキ

くき

ナホド

くき

イヨク
アガウニ

くき

ナシキナ百ホト

上小
同ド

○イマハ

イマデハ

イマトナツスモハヤ

○イマハ

イマハマタ
イマモマタ

○イマハ

えや

イマコロハ
モハヤ

○イマゴ

ツヒニ
ネカラ

イマモツテ

○イマヤ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

マウ一度

○イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

カツテンガイカヌ

○イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

○イマヤウ

イマヤウ

○イマヤウ

イマヤウ

壓てもう意あり前篇小イヤマウ
と譯せるハ非あるベ

イマヤウ

イマヤウ

○イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

○イマヤウ

ドウケルカ

○イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

イマヤウ

○イマヤウ

ツレテイタ
サンフ

○イマヤウ

カリウツ
タウフシ

○イマヤウ

夜ブリスル

允恭天皇紀の壓と
此云異提とありて

たか

ネクガル
ネゴイ

○いひのきり

イキモキレノニ

○いひ

ま

コエモタテ
ズニイフ

○いひのきり
○いひのきり
○いひのきり

キヤシヤナコエスル

○いひのきり

ハラタテル

○いひ

を

キノイスル

○いひのきり

ノヒキル

○いひ

こ

ワリキドキライフ
イヒワケスル

○いひのきり

イハヤト思
ヘドイハレヌ

○いひ

し

イヒモツテイテ

○いひのきり

ノヒスエル
イヒタル

○いひ

つ

別ツカケイフ

○いひのきり

イヒフラス

○

い

イヒカケテ
ヤメル

○いひのきり

イヒセル

○いひのきり

ハツトイニ
テラス

○いひのきり

ダツトイフ
テモレハ

ろ部

ろ

ホウヒ

○ろくのほとめ

六時ハ辰朝日昂日没
初夜中夜後夜あり

ろ

六衛司ハ左右近衛
共衛衛門と云

○ろのきり

モナロン
ロンナク

イフマデモナイ

はく部

えいぜんせむる

キフジスル

○えぢかやく

ハヅカジイ

えるべ

春サキ

○えるけり

ウツサニスル

えるく

△ネラハラス

○えろる

サウダン 欺く意ふてハ
オマス オドリコム あり

えろる

フベツスル

えろられて

ダマサレテ

えろりる

オトシコル

えろかざら

キツトモセヌ

えろかざら

ザツトシタル
ヘンジ

えろかざら

キツトセヌハナシ
オトモトイハナシ

○えろをじし

キツトシタ

○えれ

サツハリ

えれ

ナラテ
タ目

○えあちが

ツブくがキ 小児の
コラノナメテ 手跡之

○えあちが

カノ

レヌ
人

えれ

ノガレヌナカ

○えあちが

ナキ
ヤム

○えあちが

ヲカシイノラコラスル
ワラヒタサヨコラスル

ハナガ
ヒコツク

○ えおやぎくる

キラビヤカキ

○ えおやぐ

キカザル

○ えれごゑ

ナキゴエ

○ えおどりて

カホガアヲ

○ えおぢすまきる

ハナラス、
リアゲル

○ えらふ

フルヒオトス
ハキサウヂスル

○ えらたうー 懐妊

○ えうー

ヒヤウシ

○

えづらめきる

カネツク
ソノル

○ えやりか

舌どふるのふ生
琴笛ふハセワシクヒラ

セウシクフク

○ えやく

トウカラ
マカタカラ

えやくも

イゼンニモ

はや えやも

ドウゾハヤウ

○ えふる

アマリモ、ニナル
サダア、外へ出ル

口トウニタツ

えふる身

スタレモノ

はふる身

カラダヲナイ
モ、ニスル

○ えて

シマヒクキ
ツマリ

えてハ

シマヒユハ

はてく

トバノ
ツマリ

えてくハ

シリノシマヒニハ
アゲタノハテニハ

○ えてあさ

サイゲンノナイ
シマヒガナイ

○ はー

コガキ

えーに

ドキラヘモ
ツカズニ

えーと解く

ムサリ
サ一 はーたふちる

メイワクサセル 間人をえーと訓る如く
間ハ彼と此との間を去てそれより物の何と云

はる年又中間^カおきて行^カはもつぎごとく
迷惑する意おどくも種くは活し用より

○おしきかむ

タツニヤニカク

○おひつる

ツツトク

にノ部

小えうよ

ウツテカヘテ

○おほえーく

ツヤクト

○

にふる

フタツトナイ
ル斗ガナイ

マタトナイ

○二のちち

ツギ
一トホリ

○ふくうぐ

ニクソウガナイ

○ふごりいしむ

俗デ居ル

○ふごりいしむ

いごをばしき

ニギヤカ+

ほノ部

ほいふもわご

ヨシドコロナウ

○おろくとほさぐ

バラクト
タチサワガ

○ほふあゝはる

カホツキテレル

○おんざり

モ子マヘキリヤウ

○ほねあむ

カタホテウラフ
ニタクトワラフ

○お、おがめてい

ナマオボエ、
一ヲイフ

カタコトイフ

○おどろて

ヒサシウアリテ
ヤヒヒサシウシテ

○おどろをむ

ツイセウイフ
コビヘツラフ

ほとりざきるは

キンジヨマリ

○やど

あー

アヒタナシセバシ
ライチガトイ

○やぶ

カセニナ
ヤツカイ

○やこ

キリカブ
ホノキレ

○ほの

キラト
ウスレ
ホノリ
カスカニ

かのふ

ホニフリト
ボウヤリ

○ほのめうす

アラハニナニイフ

○やくそ

ホクチ

○やすなる

ほけし

ホウケル
ウツケニナツテ
キヌケ
アホウノヤウニナツテ

ほけらる人

オイボレタル人

へノ部

魚んごきめさて

バケモクヤウデ

○ゆる

オウセズ

とノ部

めしやまぐしをむ

ドウイハウカウイハウ

○とばうり

ミバシノホド
ちトノマ

○とほもかくふも

ドウナリトカウナリト
ドウシテナリトモ

○とほごう

アサヤカ

○とごろく
とまろに

ドロクトヒビク

○とぢぢる

ユキアタリガアル

○とぢぢ

ハタス
シマフ
とぢぢる

シヌル 源氏物語よ重き病者の
戦にとぢぢるまじり

とぢぢまじり

ヤメニシラシヌ
ヤンテシハレヌ

○とぢぢどぢぢ

トリエ
タノミ
タヨリ

○とぢぢたて

コレゾトイフテ

○とぢぢおく

セツテオク
ナヤツテオク

○とぢぢあふ

トリツクロフ

○とぢぢあへて

物のとぢぢ調ひて
マニアヒテ 又アリアヒデキアヒタル 意
ツカマヘテ居ル
マモナリ

○とぢぢあへて

スダサマ

とぢぢもあへて

ツカマヘテ居ル
マモナリ

○とぢぢあへて

トリエガナイ

○とぢぢあへて

ヌケツク
リツレテ

○とぢぢあへて

トヤカクヤト
心ニオモヒ

○とぢぢあへて

スエニ
ナツテ

○とぢぢあへて

ヒビク

とぢぢあへて

とぢぢあへて

ヒビカス

○とぢぢあへて

タテキル

○とぢぢあへて

ツカマヘル

○とぢぢあへて

かくむ

アチララムキ
コチララムキ

○とぢぢあへて

夜ノ御番所

○

このおやつ

夜ノ御番ツカレ

○このおもの袋

番袋

○とのおまごり

直衣衣冠の
体とふ

○とある

フミトマル

○ともあかしくあふ

十二ハトモアレ

○ともあつふともあふ

本サイニセウトオモフ

○とことえり

常住不斷

○と

ころせー

キガツマル
ウツトセイ
イニキナ
バガセマイ

○ところもささげ

オナビ所ニワキヘノカズニ
ギツトシテ居ル

○どうもれく

ギツトシテ
ミウゴキモセズニ

○とふ

とあふ

ミマフ
訪

○とてやかくてや

ドウシテヨカラウヤ
カウシテヨカラウヤ

とてもかくても

ドウシテモ
カウシテモ

○とあむかむ

ドウアラウ
カウアラウ

○とぢぬかうぢま

カレコレ
アチコチ
イロク

○とれと

サイキウ

○とれとれく

イツトキマリナク

○とれと

うしあふ

オトロハル

○とあふ

ハントキ

○とあふ

時をえぬ

フハンビヤウナ
フシアハセナ

○とあふ

フケイキナ

○時うしあふ

フケイキニナル

○時のま

チットノマ

○時

めく **驚**さう **驚** **驚**冒スル ○ここかうこる 右ヲナガ
ノ左ヲ

ナカ
ミル ○こーたう トシガヨツタ ○こー 屯食
ツマシム

○こもに イトツ
イ子ヤウニ こもくふ ○こもかんも こに

うくに ドナラヘモ
ドウナリカラナリ ○女まどはす ハグレル ○とも

きれば マタシテモ
ヤモスレバ **ち**ノ部

ちノ部

ち 勝負ナシ
持 ○ちり チツト
イサノカ ちりをうり チツト
スコミバカリ

○ちりむこて ホコリニマブレテ ○ちりもき シタニオカヌ

テモサノスマイ ちりもき シタニオカヌ ちりもき チタニオカヌ

トと ○ちり セワヲセク

ちり コトバツツカウ
ヤクソクスル 突むまぶ 上ノ同

りノ部

リウキヤク

衲襠

ソデナシノウチカケ

○リウキヤク

靈氣

リウキヤク

律師

ぬノ部

ぬのごめ

クラ

○ぬるむ

ナマヌルウナル

○ぬるづく

ジギスル

○ぬる

ノタル
ノタラツ

夫木鋤おもむけぬる
やつとてぞふる

○

ぬる

ムシウ

○ぬく

トホス

○ぬける

バツケンナ
デヌケタ

○ぬごかふる

キカヘル

○ぬき

ヒマヌム

るノ部

るわふふきて

ユカリク
エニウキテ

○るわーぞく

一家親類

るノ部

るわふふきて

ラ、サウジヤク

○男さる

男はく

ムコドリ
スル

○さちか

ナニベンモク
マヒモドツテ

さちか

トツテカヘシナク
及手モトリクナク

○とりのかぎぬ

アタマニサス

○とりのかぎぬ

ヲトコラシイ
キツトシタ

○とりのかぎぬ

オモシロイ
可免

前篇あり
の説誤あり

○とりのかぎぬ

とこぎぬ

ブエニ
アホウ
リヨ
失礼ナ

○とりのかぎぬ

ダマス前篇小
おとづるおとづる

ニ所に出せるハ誤あり日本紀ハ誘未カナル
ともあれハ乎のかかちる事うらふ

○とりのかぎぬ

レツキトシタ
カルハツニニナ
シドガナイ

○とりのかぎぬ

キガスマヌ

○とりのかぎぬ

シドガナイ
ワナガナイ

○とりのかぎぬ

三川心て眉脊の辺小高くして物を負ふる如
と云ふ

わノ部

とろびとろ

外聞ノルサウナ

○とりのかぎぬ

ワカチナシニ
ムリヤリニ

スチガタヌ
ドウリナク

とりのかぎぬ

トシハモユカヌ

○とりのかぎぬ

みづれささぎ半あま一著聞集にこそくろくろく明恵上人信にこそく
にのしりりて耻ともまづびあどわり萬葉集ハマけとよめる同意

○とりのかぎぬ

ワカバエ

○とりのかぎぬ

けうえて

ワカヤク

○とりのかぎぬ

つる

トホル

○とりのかぎぬ

ワナク

○とりのかぎぬ

ナイシヤウ
テマヘムキ

○いゝものと思ふ

我心ばかりテタイセツニオモフ
心テ大事ニオモツテホル

いゝいゝ

イツヘントホリスル

○いゝふもあはさず

人ノ身ノヤウニ
心ガコノロナラヌ

○いゝといゝ

ワガミノウ
トイフテ

ニハ

○いゝれがめ

ジマン

○いゝれがな

ジマンガホ
ミタリガホ

オレナラデハト思
ナノタカホツキ

いゝがな 同ド

○いゝる

ワレトワガテニ

○いゝて

シヒテムリニ
アナガキ

こゝろ忍びあはさずめむくまれども胸の思ひ
の餘り溢れていゝて出るゝの詞

同意あり

○いゝるの

自タヤラワカラヌ

いゝるのひ

いゝ

正氣ヲ
ウシナフ

○いゝる

ナニギサセル

○いゝあはさるゝ

フルヘゴエ

○いゝあはさるゝ

フルヘ
タル

カキ
ガマ

○いゝらハげ

コドモラシク
オトナゲナイ

いゝらあそび

コドモアソビ

○いゝらあそび

圓座

○いゝらあそび

ワラヒイル

○いゝく

ラチラツケル
シワケラスル

○いゝる

シゴト

○カハル
ヤクメノヤウニ
カハル
モトメテテ
ナク

カハル
モノズキラエウ
○カハル
法事ヲスル

○カハル
シヤベツ
○カハル
ブンダツテ
トリワケテ
アガ中ニ
キハダツテ
申デモバン
トリワケ

○カハル
ナギサウニ
○カハル
打ワヒナガラ
シヤレル

カノ部

かいそく 掃掃
○カハル
掻放
○カハル
かい

あで
一トホリ
○カハル
ソトノツク
○カハル
前篇ホカマ
ラクホカマ

らうき
シタイガヒニスル
○カハル
ガワラリト
オツヒライタ
○カハル

波のうま
あま
○カハル
ヤリキガヘル
イレキガヘル
○カハル
イケン
○カハル

らうき
ニラミアクテキル
○カハル
フリカハツテニル
ウレロムイテニル
○カハル

か
イヌル
○カハル
オシカヘシテ
マイキド
○カハル
ヒトキリヤシ
○カハル

どく
ヒトキハダツテ
キリヤウノアル
キリヤウガヒニ
リコウサウナ
リクツクサイ
○カハル
かど

キハ

にハあさび

トリエノナイズナイ

○かちさび

カツニ乗ジテ

○かうり

マリダ

○かぶよみ

カヤク

○かづらひて

ウキミヤツシテ

○かぶやうー

ハツカシ
ハシガマシ

かぶやうーうらで

ナントモナイカホテ

○かこもろ

ソバ
ハタ
かこもろめ

ヨコガホ
カタワキカエニル

かこもろ

セフニ思フ
キエタイ

カホアガタカレル
ニユツウオモフ

○かこもろ

マシロクニナイ
シトモナイ

○かこやある

ロクニナイ
ヨクナイ

ユガミスギカフテ

○かこ

庵

カタイツホ
半分タイン

○うらめ

ハンシ

○かこらみ

ハナシスル

○かこちある

キウヤウニシ

○うらかど

ハシクレ
カタヘラ

○か

たこふ

ホウクハ

○かたぎき

ホウガヘル

○か

ちりある

ハンデキナ
ギヤウジエセマ

うらめ

トシワカナ

○かこみだま

刀玉
テウマ

○かいらひちぎる

ヤクソク

○かいらひあひ

サウダシ

○かいらひ人と思ふ

モチアッピ
モノニスル

○かこお

土佐日記
小日也え

えうぬかあめりりりあるハふさき置りて
いづるあり今俚言に
カタイノ
とふは日ド
かゝる
イヤミイ人

○かゝく
クフラスル
カニカヘル
タガヒ
モニモウナ
ドンナ
オロカミイ
ヘミナ
○かゝる
イテラダ
○

かゝる
○かゝる
シニクイ
カ
ホソイコエ
○かゝる
オニタイコヤノ
ミクイコトヤノ

○かゝる
トホドホレウナル
○かゝる
ホウビモラウ
ホソイコエ
小児の声
○かゝる
ホウビ

ある
○かゝる
マヘビロ
○かゝる
キツト
ケウレテ
ナギシテ
ヤウクニ

○かゝる
カアイガル
○かゝる
ナイワカカル
からうじて
ナニギシテ
ヤウクニ

もの
乾臭
ヒガカキ
○かゝる
コノヤウ
○かゝる
コノヤウ

ドウヤラカウヤラ
ヌケツツリツシテ
ホネヲリテ
○かゝる
ワカラヌ
モノイヒ
○かゝる

イケ
カ
かゝる
シカラルル
トガノヲウケル
かんだうせ
上小
同ド

○かゝる
カウシテコレナリニ
かゝる
コレホド
かく

○かゝる
コノマニテ
かくて
コノヤウニシテ
○かゝる
又ケメナク
セイ出ス

○かゝる
コノマニテ
かくて
コノヤウニシテ
○かゝる
又ケメナク
セイ出ス

○かちきく
ヤスク
テガル
カハツミ
ツイ
ムツカシモナウ
シアモ及バズ
○

かげとある
ヤセル
かげとある身
ヤセボツシ
○かげくし

カクシテアル
オモテダヌ
かげくし
ヒカゲモツ
○かごと
かおとが

ま
カコツケ
カヅケル
カコツケコトバ
セイモンダテ
かごとむら
ワヅカ
イサカ
かこち
ニホヒグ
ルノニ

よする
カコツケル
かこちて
コトヨセテ
○香ごめ
キリモナシニ
シマヒカシシヌ

○かさわどり
子ヨツトマル
○かざりぬ
サウクモナラ
ヌニヨツテ
○かざりぬ
上ニタツモガナイ
一バシノ

琴ヒク
○かじけぐ
カキソコナフ
○かざりぬ
嗅クラベル

○かちろ
出家スル
○かちぬ
上ニタツモガナイ
コノウモナシ

かちぬは
上手
名入
○かちぬ
シユシヤウニナル
モツタイガツク
○かち
サイハヒナ
日ガラ

モツタイナイ
アリカタイ
かちぬ
イニギニスル
かちぬ日
日ガラ

ウツテツケタ目ヨリ
かちぬ
オソレイル
ブサタノアイサツ
アヤマリ

ウヤマフ
シクヅリゴト
カシヨリ申ス
謝
○六一

かーこまろひ

アヤナル

かーこまろひもあうげ

法外ニシテ

○かーらるる

かまろひ

ホツタイスル

○かーらるる

アタマヲ
出ス

○かひ

タマゴ

○かひごめー

カイダルイ

○かひら

くる

ナク

○風をよー

キビシイ風

○かづく

ナカニツケテ

○かづぬく

ヨネイ
イクワモ

タクサニ
オビタシタ

スサマジウ
ゲラサンニ

○かびふ

もあーぬ

ゴクウゲシ

○かまめめ

アラハニナシニイフ

よノ部

よろやえしき

ヨワくトシタ
フヨウナイ手跡

○よろこび

レイライフ

○よろし

ナシ

○よふも

ドウイフ
ガアウテム

○

よろぬ 世をきぬ 世の中をきぬ 世にぬぬ

セケンナミデナイ
一トホリデナイ

セケンナシヌ
ヨニナレヌ

○世にあさ

ムルキナ
ルキガナイ

○世

にあふして

トリウクシモナウ

○世にめぐり

ウカククラス

○世にまゝる

ハツカウスル

○よとともい

ネンガネンヂウ

○よりまへ

ヨリテムツギク
糸にうつり

○よるべれく

ブラツイテ

よる

ナミヨル 紐
衣小あり

○よは

ヨリラカケル
糸をどはらう

○よるべの氷にこく

さめる

セイモン
ガキガフ

○よをぬて

ナネニモク

○よとつくす

一生キル

○よとのがや 世とまう

イキヨスル
トセイニスル

世のちるさ

出る 世のちるさ

共に上

○よくとま

正体
ニナク

○よそほ

ギヤウサニナキコエ
ミゴト ハナヤカ

○よそへて

ツギアテガヒシテ
オナジスチニシテ

○よそい

カザリ

○よづく

セケニナレル
バナレル

○よらる

心ガマヘスル

ツシム

よらる

ツシミブカイ
タシナミブカイ

○よらる

ヨイコトテナイ

○よらる

イリ用ノアル
要めえうの假字

○よれのり

ワルイコトシヤ

イキテ居ル
マカスクナイ

○よの人ごと

人ノクナハ

○よ

すくあ

ことい

マイヨ

よれく

よはく

共に
目

○よこあ

まる

カタコトイフ

○よぬぬ

ヨケラレヌミチ
ミハリミチテナイ

○よみづ

ノイドノミヤゲ

○よむむ

ドコヤラワケアリサウナ
アンバイガウク

○よむむ

ようめさて

ナシヅヒトスギアリサウニ
ワケノアリサウニ

○よーや

ヨイハサテ

○よーある

ユエンノアル

○よもささ

ヨガナヨザウ
ヨガヨトホシ

よる

ハまぐらに よら

共よ
団ド

○よんが

キドコロ
アリウキ

ヨリドコロニスル

たノ部

たひい

モツテノホカナ

○たむる

サイカクスル

○たを

る たら

タハムレル
テニガウスル

○たはやさく

心ヤスウ

○たを

をてがさ

コラスオホセラレヌ

○たどく

トボくトスル
シアニオチヌ

○

たとる

シアスル

たどる

カシガヘモツテ
トボウキナガラ

たどる

アトサキ
ミテ

○たどりぬく

ハイキニ

たどり心あ

アトサキノ考ナシニ
フカイリヤウケニモナク

たどる

シアナシニ
アトサキミズニ

たどりふる

チャウクニイ

たどる

○

あへぬ

シアスルダ
デモナイ

○たちあ

トフツオイツ

○たちあ

ひびろく

タツツキツハタラク 落凹物語かまおひろくかどに
とあるも同語又ハひびろくの誤ともおもむき我考也

○たち

おきてこめて

立ッ居ッ
立ッ居タリ

○たこに

たつふ

タツ
くト

○たうたう

カウゲナシ

○た

とやまて

クニヤクト

たやまて

シナヤル

○たとりあ

シナリトセヌ

○た

ホカノコナシ
ナニカヤソテ

たふ

ナニノコナシニ
ステデ 空手

○たふ

ガラツク

たふ

たの

ブラウカス

たの

キウニブラリト

○たむ

月

ライゲツ

○たむ

タハミヨセル

○た

たむ

ツッホリト立テキル

○たむ

タレカレナシニ

○

たむ

タレガマア

○たむ

ノアテ

たむ

らむ

アテドナシニ

○たむ

トリツクシマモナク

○たのめ たのぢる

アテニサセル

○たのしき

アトラクナ

たのもしき

タノミガヒカ
アリサウナ

○たぐへて

ツレダタセテ

たぐ

ひ 夫婦

○たぐひて

同ニ

○たぐひある

フタツト
ナイ

ルキガナイ マタトナイ
ムルキナ

○たやきく

ツイ
ニアニモ及バズ
カルグニニムツカレイコモナウ

○たけく

エシリヨナレニ
セイイッハイ

たけい

スレデヤナス
ヒクキガナイ

○たふる

レンボウスル

○たえて

トホウモナク

○たてしとれども

立テモスワツテモ

○たぎ

タグル

○ためい

マヒクニ
テ居ル

ブラツイテキル
ミアハスニ足フム

ためい

ウキノト
カフモイカズニ

○ためめて

ユダニサセテ
テノビニツテ

○たもげに

ガルサウニ

○ためる

ブリヤウ

○ためい

カタ
レイ

○たひくりにせさせりやう

御平産
アソバス

○たきくる

チカラニナル

れノ部

さいのまゝ イツモノキ

○さんざる

タレシニスル

同ジスギヨナベンモスル

○さゝり 学モノギ

○さゝる

シタイヤウニスル
ワガジュウニスル

○さ その部

そろろ アハレル

○そく

ジツクリ
トセヌ

カドヒシノアル

そぞづき

上ハ
同ト

そくく

ケンドウニイフ
アヒナクイフ

○そむ

カタヨツテキル

そむむ

カタツケル

○そめ

ヨコガホ
カタワキカラミル

そめく

ヨコムキノ

○そ

ろさむ

ムシヤウニサムイ
ノツタニサムイ

○その

スハメル

○

そや

ソリヤコン

○そや

ソロリトアケル

○そ

む ネタム

○そ

キウデ

そ

スイリヤウスル

○その

サワガレイソラ

○その

ソノイカイ
ソノ

○そ

ソデノ中ニモツ

つノ部

つゝめて

ツウボウテ

○つがしがせんがし

ツボリウチ

○つちのあらる

ハヤツギキニキル

○つとめて

アサトウ

○つらうち

鳴弦

つらうちきき

ヨネスル

○つらこ

うさみんで

懐中華

○つらあ

不器用ナ

○つら

さび

ツギアテル

○つら

シラレトモナ

○つらう

コリコウニ
ツマヤカニ

○つひに

ヘイゼイ 常住
イツモ 不断

つねより

フダンヨリモ

つね

なま

定マツタ
ツガナイ

○つね

スルモノナニ

○つね

ふくま

コウラニクイカホ
ニクテラレイカホ

スカヌカホウキ
イヤナツラツキ

○つね

イギバル

ギシミアフ
ヒキアフ

○つらぬく

トホス

○つらぬく

お

ワルイシムケ
ラセヌ

○つらぬく

ナラベテ

○つらぬく

ツコタタ

○つぐぐと ツクネント
シニソコカラ ○つぐりゑ サイレキエ ○

つま コダチ ○つまえぐねまる ノケタウオモフ ○

つまはく ソヒネ 交合
マツハル ○つまあるー 心オホエ
ソヅルシ ○

づぐくと ヒトツク ○つて コトツテ ○月あそ

のゑ ナニキノエ ○しんあー ニツカハシウナイ
トリツキバガナイ ○しん

○つち チツト
イサカ つちをうり チツトバカリ つちのま チツト
スコレマ

つちも スコレモ ○つめく モギノスル ○しんあそ ガム

ニクツウガナイ
ホトケフヤウチ ○つひふ トウク つひよハ ツル所ハ
ツリハ つひの

シツヒマデ
コノトホリ つひのせきろう スミトホストコロ

ねノ部

ねふ コエラアズル ○ねぢけがぬーく ○ 正チキニナイ
サカニナル

糸んとはむ道ど

ネヤウト
思テレド

○糸ぎう

正五九月ノウツメ
年三の音

○

糸とむ道ど

ねぐされがみ

ネオキノ
カミツキ

○糸ひ道ど

かみ

△チヤツイタカホ

ねびきて

ネトボケテ
△チヤツイテ

ねとびきて

上よ
同ド

○糸びせく わびまらる

トシカユク

なノ部

なはいぐらるに

コト氏セズニ
ナレ思ハズニ

モノカ氏オモハズニ

○かにをうり

ホド
ドレ

○かにとと

ナトイフ心テ

かふり かにうり

ナシノ
ナシイノ

○何ぐしの云云

エトヤラノマ

あまぐられがー

タレ
カレ

○かにぞ

ドウシタモク

かにぞハ

ナシヤイウ
テミヤレ

○かに

かに かにしう

ナシノタラニ

あまかも

ナシニア

○

かにごあちせむ

ドノヤウナ心モチ
デアアラウツ

○かにのいさるもぬく

エリヨナニ
ナノクモナク

○かほ

黙ノ字の義あり伊勢物語小みやづ之のまじ
めにたふやハ有べきとあり萬葉集小黙ノ字

とまよともおね
ともよせん

○あやくし

ナデモトイ

あやくし

をラシワ
ゴトシヤカニ

○あひあし

ダマツテハキマイ
シツトノハキレマイ

○あどあど

ナゼニ

あどろ

ナゼゾイ

あどて

ドウイフ
ワケテ

あどて

ナデゾイ

○あまをひ

クチスキ

○あう

ハジブン
半分ホ

○あうがミ

コシジン

○あうぞうに

チウニブラリト

○

あぐれて
あぐろへ

ナカウイツマデモ
ナガクト

あぐらある

アガイキ
スル

○あう
あうし

ワタリノ中

○あうとこのさき

昔ヤカイフツ
手跡ふつり

○あうめ

眺望

長見の義にて眺望にゆくハ
行程をあうめえとての意あり

○あうめ

愁

りの思にあうめとてハ
えつめるとして時魁を永くするこ

○あよ

やうある衣

キオラシ
タ小袖

○あよ

あよびて

あよびさる

シヤカ
クナクト

○あよ

大評判ノ

○あよめ

ナダメテ

あ

あよる

ナダメル
ハシテオク

○あよ

ソチ
ソカ

○あよも

ナゾイノマア

○あづ

カアイガル

○あつむ

モテアマス

○あづま

ハナ
レヌ

ヒツツイテキル

馬携ウマサカの義之神樂哥小皇神のみそふさふれ
てあづまはまるとの類なり

○あづま

波漬障ナミヅカサの意

○から

クセツク
カタノトホリヌル

○から

シタオラシ

○かのめに

ハスカヒニ
カナリニ

ユガミスヂ
カウテ

かのめある

ミンロクニナイ
ヒトトホリ

かのめぬ

ユガミ
ナレニ

○名のじて かのめなりなり

名ウテホトニモナイ
評判ホトニモナイ

○あぐ

シヤウコト
ナレニ

○あぐさむ

ウツサシ
スル

かぐさめ

多くハ愁のやいどたぐさめといふことども我心かくさめ
かゆつあどやうに感賞の止ぐさめ方おもいつり

○

なやま

モダユル

あまの

ウレログライ
トウクリトナイ

成就セヌ

○

あまの

グズ〜トシタ

○あまうむ

成仏ヲ
シヌカヌ

○

あまめり

年ワカニ
ウツシイ

あまめさかハサ

チワスル
イロドリアラフ

○

あまもの

チウグシノ人ガラ

○あげ

無氣の意之古今集よ
えれあハあげの義のけハ

○なげ

ナゲヤリ
あげのあさけにけ

あげの

シニジツデアリ
ソモナイ

○あご

こて キゲルガ
ナホル

あごすあごむる

オトクサス

○あめ

あめげある

ゴツチ

○あまぬ

あま

あまぬ 一トホリテナイ
セケナメテナイ

○あまぬ

目ニ泪
ヲモツ

○涙と一月

うけて 目ニハイ
泪クンテ

○あびく

カタ一ホウ
タワム

○あぶ

あぶ ナホドノコガアラウ

○あはす

ソダテ
アゲル

らノ部

ら 年功
コウ

○らむ

カキドキ
ヲアゲル

○らうがハ

ら コニザウスル
サワガシイ

○らうさる

カアイガル

らうさけ

アイラ
モキ

らありて テニワイテ

らうさる

ワガジエウニスル
エタイヤウニスル

むノ部

むとくれる

ミニコウゲノナイ
タノミガヒノナイ

○むらひ

ノキツ
レノコ

○むらひ

タガヒニハラダテル
コダハリヲ心ニコシラヘテ
火ノヤウニハラタテアフ
ケミカケル

○む

むて

ドヤクト

むらむらむらむら

カタマツテキル

○

むらる

シニキワカス
グドクイフ

ハラダテノナク
キシヨクワルガル

クリコトイフ

むららむら

ムサクトトシタ
ウツギタナイ

キタナイ

むらむらむら

ナカヨウスル

○

むらむら

中ヨウ
ハシスル

むらむらむら

中ノヨイ

○むらむらむら

キガイラクスル
ムネガハリサケル

ムネガセツナイ
ムサワギガスル

セグルミイ

むらむらむら

上よ
同ド

○

むらむらむら

むらむらむらむら

ムネガイタ
ムネガハシ

むらむらむら

ブツクトナル

むらむらむらむら

ツカヘガオコル
コハイノシラスル

むらむらむら

クツタタ
ガヤム

むらむらむらむら

キモチガ
十分ニイ

○むらむらむら

シノワラヒ
スル

クチノロキデロラフ

○むらむら

ヘキホウ

○むらむらむら

コハイ

○むらむら

ネカラ
イッソウニ

○むらむら

ムゴウ

むらむらむら

ソシラヌ
カホスル

カケカハス
ムトクシニナル

○むらむら

ムシカゴ
虫籠

○むらむら

クツタタガ
オホイ

うの部

うへ うえへハ オモテ ムキハ ○うは アリノマ、ナ心 ぬき ツクロヒケガナイ

○うふぬり リンキ ぬき ノミエヲ ヌサル ○

う モジヤ ゲニ べーこそ ダウリ デコソ ○うとむ

ソエンナ ウニスル うさー ソエンナ うきくある 上ホ 同ド ○うちを

ぶく ハダタキスル ○うち ハノ系ガ アハヌ ぬき タフレカ、ウツテ

ちつげ サレアタリテ テアヒガシラニ ○うち 散糸 小児のおそ ぬき フリワルウ

えぬ はさひ ○うち アリアハサズ ガアヒウルイ ぬき ミウゴキ スル

○うちぬ ワウチキウス 衣にうつり ○うち カエコイ ぬき

○う ノンドウナ キブサイナ ぬき ハツノイ カエコイ

ナ チトノマモ ○う スコシモ ナガハズ ぬき

ナ ナガル ○う ムネンナ ヲライ ぬき

うらま カハル ○うらまふ マヅリナニニヒタスラ ○うらむ

らく ヅキくうがキイタム ○うらく 發心集に腫物の幸よまり ○うらく 心

テキ ○うら 物ぬふるを ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

○うら 心 ○うら 心 ○うら 心 ○うら 心

さして

キウニブリト
トイラヘモツカズニ

○うめく

トイキヲツ
ケテスル

○うしろ

む

セワヲヤク
ミニ引カケテセワスル

○うしろやま

心ガカリナ
キツカハシ
キツカヒナ

心ガ、リガナイ
キガ、リニナイ

写カヒ
モナイ

○うしろめ

心ガカリナ
キガカリナ

キツカハシ
キツカヒナ

カタ心ニカ、ル

○

うーあふ

サキタタセル

○うひよ

ハジメテ

○うらな

ヤミアガリ

○うらな

ウツトミイ
イニキナ

キウクウ

○うら

おしん

忌中ノ衣

おノ部

おさち

トツオイツ

○おどけ

スワツテキルセイ

おつく

エリス
エル

のノ部

のびる

アガル

○のどむ

ノバシテオク

○のちのさ

法事ヲスル

○のちのこと

後産
胞衣

○のまて

テウシニ
ノリテ

拍子ニカカツテ

○のまてがふ

サダマリノ外ニナル

身ふどにまてていり

○のーる

ワメク
シカル

○のぶる

イヒホドク
イリワリライフ

雅語譯解拾遺下卷

村上忠順輯

おの部

おいらふ オトナシウ

○おろしとむる 病中

○おに

おに オニヤウチ

○おがろけ セウク スコシ

おがろけ

おろぬ ネヌケノシタ

おがろけおろぬ セウクノコ デナウテハ

おほとろに

ソフホウカイニ
ヤスシカニ

ドレトナ

おほとろく

オホヤウニ

おほとろて

オホヤウテ

おほとろてゝる声

オホコエ

おほとろそ

ゼンタイ
タイガイ
ヒトホリ

おほとろそ人

ヒトホリノ人
ツウレイノ人

おほとろい

ヨククオモヒ
カヒテミレバ

おほとろる

タクサニ
アル

おほとろたつる

ソダテアゲル

おほとろつる

トリシマリガナイ

おほとろつる

小便ツボ

おほとろつる

モドカシク
シレツタイ

オモヒサゲノラレヌ
ガテシガイカヌ

おほ

ふけおく

ダイタシ
タイキ
フサウオウ
ミブニスキチ

おほとろる

おほとろる

オホシ
ル

おほとろる

おほとろる

キハメラレヌ
ドレヤラレヌ

おほとろる

代筆

おほとろる

フイラウタレル

おほとろる

ビツクリスル

おほとろる

ミスボラシウナル
フケイキニナル

おほとろるのかむじ

楚ノ簪

おほとろる

コハイ

おほとろる

ウハサ
大評判ノ

おほとろる

あびて

オトナシウナル
チエツイテ

おほとろる

オドシノ
タネ

おほとろる

おみぎ

ハネノケチシマハヌ
ワレイシムケモセヌ
イラヌモノモステモノニセヌ

○おちわら○

おちぶる

オチフレル
レイラク

○おちる

ハイル

おちる

コミイツテ
セイ出シテ

○およづけゆく

セイジンスル
オトナモウラ

老付の意あれが前篇
おちるけとあるハ非也

○おぎ

心ツカヒモナイ

○おぎ

おちる

コハカル

○おろ

オクノコナニ

おろ

無與々々
の意

○おろ

おろ

ノキワカレ
ノキハナレ

○おのろ

ソシ

○おろ

臆病

○おくふもこに

ウチテモ
ソトテモ

○おくまり

オクノホウ
ヒツコシデア

おくま

おくま

共の上
に同ド

○おま

かぎ

同シ宛ノキツネ
オナシメウモク

○おま

ハエル

○おま

随分
オホカク

ソレサウカウニ
ネンゴロ

○おこ

ツツイタイカヌ
ナマル
ヘイユスル

そこののかれおん
も知へる

○おこ

修行

おこ

モゴト

おこ

行カ

○おこ

おこ

トシヨリラ
シラナル

○おこ

おくとぬと

ネルニモオキルニモ

おさうに

オキトモナイ

おさまどりに

オキワスレル

おしる

アコナイナニ
ハイル

おしあて おしこめて

引クルメテ
ツツコニ

ワケヘグテナニ
ドレコレナニ

おしあて

一トホリ
テナイ

おしあて

ズカト
グダ

エニリヨナニ
ブエニリヨニ

おしあて

オシツケワザナ

おしあて

ツマリキツテ
コソリヤフテ

キツリトツマル
人多くか合や

おしあて

ツキヤイニ
ヨシコロナク

○

おしあて

キゲンガ
ワルイ

おしあて

おしあて

しる

モツタイ
ノアル

おしがくしに

カホラ
カクシテ

おしがくし

おしあて

カホガアハサレヌ
ハツカシガル

おしあて

心ホトニハナイカヌ
思ホトニハナイ

おしあて

コニ入テ

おしあて

リツハナ
ハレナ

おしあて

おしあて

カホガアゲラヌ
ツラ出ガナラヌ

おしあて

カホガヤセル
おしあて

おしあて

シクシテ
ヤセル

○思ふがごとハ

オモツテ居ル
ト水リニハ

○思ふふわり

ヒトニア
ガアル

○おもひもあはく

ケツシテ

○思ひをあら

おもひきつる

ミムキモセヌ
オモヒキル

○おもひあはれ

キラヘ
ダテル

○おもひごち

フタリ同じ
ヤウニオモフ

○おもひごち

オモヒ
トマ

おもひごまる

上
同ド

○思ひかハ

タガヒニ
シセツテ

○

おもひかり

タレモ同じ
ヤウニオモフ

○おもひう

おもひあ

タマリカネテ
タヘカネテ

○おもひよそへ

ツギアテ
ガヒシテ

○おもひつ

める
オモヒ
ツギル

○おもひ孫む

コラヘル
オモヒコム

○おもひ

あし
コハロ
ナシテ

○おもひあし

オモヒナシテカ

おもひ

れく
タウタウ
ナシニ

○おもひのどむ

オモヒ
カヘス

○おもひ

おもひが

スイリヤウ
シアテヤウニ

○おもひく

オモヒ
ツメテ

○おもひ

想像の義を憶ふおもひと
其時其処へ且も意

○おもひ

キバラニスル 遣問の意にてむきにむきをや
ウツサニスル 思を外へやりききをや
おもひやるるる

ウツサシノニ
カタガナイ
○おもひふくまで
おもひのつて
ニア
ニ

クレアンジ
テ フクレテ
○おもひわぐる
カカウトマル
カウマンブル
○おもひ

おもひかけさや
カウアラヤ
オモハナンダ
○おもひしらぬ
おもひさびさ

ワキマヘガナイ
キウケガナイ
○おもひせく
コラヘニクイラ
コラヘル
○おもひかる
ハエ
ナホス

草木の枯て又
別小生むるを云
○おびきて
トボケル
○おひて
おひ

つきて
オヒカケ
テイテ
○おひさかく
テツツナ
カキヤウ
○おひま

どぶし
サガシアテ
ラルヌ
○おひきぎひて
アトカラ
ヂキニ
おひ

きぎふ
テウドヨイ
コロアヒ

くノ部

くをし
テイネイ
○くをわ
ソリヤコソ
○くる

やらかる

ヤラカス
ヒキザイテスル

○やきら

ヤキル

ソフト
ヤウリト
やま

ソフトタル

○やま

ミグルミウナル
ミスボラシウナル

ミギタナウ丸

やま

やま

ミグルミウナウテ
タシヤラシレヌヤクニ

○や

らふ
オヒヤル
オヒ出ス

○やせ

シキク
スグレタ

ヤセ

きは
ヨキス
シヤウ

やせ

一トホリナラヌ人
ヨウイナラヌ人

○や

ヤクソノヤウニ
セイ出シテ

○山に

トシセイ

山か身とあぐ

上に
同

○山はと

山カラノ
ミヤゲ

○山のたぎ

ヤマノ
ヤウス

○

やせ

コク
コク

○やせ

ラクナ

○やせ

キヤス
モセヌ

まノ部

まろ

合香をまろ
ちる半あり

○ま

キラビヤカ
ノラアテ、ミラレヌ

○

まろ

マシロクナヨイ
マシロクナ

ま

ユガミ
ナシニ

○ま

0814

目エエラ
ユルサル

○まちつけて

まちえて

マチオ
ホセテ

○ま

ちふる

はちある

マチボヤケ
ニアフ

○まがは

マブタ

○まがく

ムリム
タイニ

○まさ

ソロヒキ
ツテアル

○ま

ぐん
ハヤウ
カラ

○まき

まねらる

タント
ナイ

○ま

まゆれのちから

スリナイ
兄弟

○まが

ナニカサエオイテマア
ナニモカモヤメニテ

一バンガケニ
ナニカサエマア

○まのり

ツケマトフ
ツケマハス

○まら

まごつ

政道ヲ
タダス

○まね

ノガス
ワツテ

○まう

ソコ
モト

○ま

マツハル
ソヒネ

○まぐ

モトノル
タツネル

○まご

ふる

ソバヲ
ハナサヌ

○まけ

キカヌ氣
マケヌキ

○まけ

つさ

マケタ
クワタイ

○まね

マナサシ

まぶ

メツキガ
オシロイ

○ま

オホキ
リヤウ

○まさ

ナグル

○ま

正体ガナイ
タイガナイ

ワルサナ

○ま

異

ほめくりに ツ子ギナ

ゆめある

カタクロシイ シ子ノナ

○ゆめをひきあけて

ノニカドタテ、ツリノニナツテ

○ゆめ

たぬげに ノモトモダ
ルサウニ

○まもりめ

メツケ

まのさめつ

くる ハリバン
ヲサセル

けノ部

けいめいさる

ウヤマフ
ソシタスル

○けもひかる

ニキガカハル
其恩頼と蒙る

○けふくー

コツラニクイ
ニクテラシイ

ツキノワルイ
ヤウスガニクイ

けふくー

ニクウオイヤウス
ワルウナイサマ

○けん

御朱印

○けんそ

シヤウ
コニシ

けごさる

キラト
ラレル

○けちさる

ダノラ
サス

○けさがる

ケイラ
ヒク

けかけさるか糸のきさる

キニデイ
ノケビキ

○けむぎせぬ

マコト
ニセヌ

○げむぎの行ひ

キタウ

○けむぎさる

タテモノニスル
シケタスル

ウヤ
マフ

○けりある

マトアルマイ
ホドナ希有

○けり

だちて ぢかきびて

イロソ
カシテ

けさうびる

心ヲカケル
エモツクヲ

○ぢかきび

アバイガサ
ツリトアル

スツハリト
アカヌケガシテ

○け

しうあび

ベツフ
モナイ

○けやく

ゴマヲ
タク

○け

ぢか

アバイ
キミアイ

ケイキ

けいさどり

キドリ
スル

けいさたま

ちる

ゴコニヲ
タマル

けいさむ

ハラタガミエル
アバイガツク

オモハセブリ
キミアヒツツケル

懐妊

れいんをうりに

ケイキ
マデニ

けいんをもちる

オチウニ居ラレヌ
シツトリミナイ

○けさあ

ハレレイ

ふの部

ふちせ

ナリユキ

○ふちせ

フリオ
ホセヌ

○ふちせ

こる

エニウニモル
トホクニモル

○ふちせ

雨雪おどの
又フリニキル

○

ぢか

サハル

○ふるめ

コラウナ

○ふるめ

うい

トシタケタ女
ラセワヤク

○ふるめ

ステモノニセラレル
ノケモノニシテオク

○ふるめ

四六

べに

ドチラガ
フカイト

○ふよう

ヤシニ
タノヌ

○ふさく

フタヤウニ
フタトホリニ

○ふつふ

ルキガナイ
カケガヘノナイ

○ぬごごちをひる

フタツハイツ
テ居ル

蚕に

○ぬ色をひて

ヨリサハツテ

○ふらつづ

番袋の類ひて衣服調度

○ぬくよろに

ふくらふ

△ツクリト
肥るる

○ぬくつら

ヨクフカウ

ふくつひぐる

ヨクフカ
ウ思フ

○筆

のきり

コウケルスル
コシヘル
サシツスル
ねとんねとん

○ぬさハ

ニアハシイ
オモハシイ

サウオウナ
フサフ
テウドヨイコロアヒ

ぬさそ

テウトヨ
カラウ

○ぬさびや

キヤスマ
モセヌ

○ふん

ジマン
バナシ

○ふん

風のフキヤムと笛とフキヤムと
又きむら

○ふん

はくる
詩ヲ
作ル

○ふし

トキ

○ぬしめ

クスミキウテ

○ぬし

クスベル
フクライフ

この部

ころ ころ母ジブシ ○ことふイヒ出ス

こといいでぬ イヒダサヌ ○ことにある ベツモノニナル
イマデトカハル

○ことやぐ ノデタガル
シウギイフ ことやぐさる 賀ラスル ○

こといむまぶ ヤクソクスル
コトバラフガフ ○こといもあぶ コトモ
セズニ ○

ことぞともぬ ウカグト ○ことばけて コトヨ
セテ ○

ことあぶ サウナウテカナハヌコナラ
コシナコトナスハ
如是あり ○ことあるとぶ ナニクハヌ
カホスル

さあ ナニナ
イサマ ○ことあ イヒダサ
ウチウセ ことれ ナニクハヌ
カホスル

○ことぐ イヒダサ
ウチウセ ○ことやめて ヤタニシテ
ナニモカモヤメニシテ

○ことあむ イヒカネル ○ことあり キウト
シタコモ

ア シツコナウテ
心エチカヒシテ ○ことあ シツコナウテ
心エチカヒシテ ○ことさ シツコナウテ
心エチカヒシテ

さ イフモダダヤ ○ことい イフモダダヤ

ナ ナニゾフハシニハ
ナニゾトイフト ○ことち コトバタタサニナ

こちや コツチハ コザレ ○こちともこりぬ コリヌ ○

こる キル ○こる コリル ○こりちぬ コエノ アビイ ○こら

る コギル ○こよぬ コノウヘモナク ミツクンチガフ ○こきかれ

コレ アチラ ○こねいりぬ コチラ ○これぬかぬ コレガソレ デアアラフ ○こま

○こく シゴク ○こやをぬ コチラ ○こまがぬ ワカウナル ○こ

どりぬ タテワ カウテ ○こまがぬ ワカウナル ○こ

ひま モラヒ ニヤル ○こくろい キガセク ○心

む キヲ ツル 心を キガツキ スギル ○心をぬ オチウイテ 居ラレヌ

○心をぬ キガイラクスル セグルシイ ○心ふ オクユカシイ タシナミブカイ

○心 コナク コソドコ ○心ぬ キニムク ○

○心 ハツミニカウテ テウシニウテ ○心ぬ キニムク ○

○心 キヲヘ ダテル ○心ぬ イソク トスル ○心ぬ

せぬ

思フマニ
ナラヌ

○心とる

キゲントル
キドリスル

○心こくる

キヲオカヌ
心ヲ打アス

○こころをみる

シニテイ
ヲミル

○心をせめて

キラヒクク
モツテ

○

心がくまる

心ヲカクニスル

○心よめる 心ひく

ヒイキニ
オモフ

○こころはく

心ヲクダク
コシカギリ

心よくニ思フ
イカシラダク

○心づま

スカヌ
ムトクニナ
オモヒツキガナイ

○心あぐ

キナガウ
ユウテウニ
コシカギリ
シニボウウヨウ

○こころのくま

クライ心
キラヘダテル
キノシレヌトコロ

○こころの鬼

キズモツアシ
ソコキミガワルイ

○心かくる

キガキ
カヌ

○心れりはる

シユ

ツキ
○心あはる

心ツカヒ
ガナイ

○心あはる

シニキナ
コシラダク

○心げさる

イロドル

○心こと

ベツダニ
カスウニ

心

あはれる

トホリ
ナラス

○心ある

モノニ
心エタ

○心あはる

キガトホウナル
キモフトラレル

正気ヲ
失フ

心ざりはる

シニデモシマヒ
サウニ

○心えさる

シエユク
シスカサレル

○こころこくる

タラシ
テミル

○心

まじりふ イラフ
セズニ
心まじりる キラシ
ツメル
○まじりふ
○まじりふ

テマバカリ
ノコノロテ
○心もとあ
キガオチウカヌ
アブチウオモフ
○心もとあ

まじりぬの反對
進み乗り まじり
○まじりぬ
まじりぬ

キヌケニ
ナウテ
まじりぬ
○まじりぬ
カケ碁
名銭
○

こじゆせて マゼコゼニメ
シゴク
こじゆ マゼコゼニ
トリコム
○こじゆ

て オント
ウニ
○こじゆ
抽イ
ウタ
こじゆ
ツタナイ
詩

○こじゆ
タラシテ ナダナテ
ツタリコトイフテ
○こじゆ
妊娠

如持
スル
○こじゆ
妊娠
○こじゆ
ラクニ
ラクニ
ラモツ

キラクニナル
キハラシスル
○こじゆ
マイタ
キヌ
○こじゆ

ひらむ ハヌケテ
モノイヒ
○こじゆ
コネバコニテ

心ノ部

えんじふ
ツヤモタス
イロノカス
○えん
ドウモ
えんじふ

イフニイハレヌ

てノ部

ふにふるむりり

テモトニア
ルヤウナ

○ふとまる

フヒコト
スル

○ふとつりそむひよあつる

ヨロコバシラテ
タマラヌ

○ふ

かく
シカタテ
シラス

○てむしくまぐら

てむしくまぐら

ナシノツケラシメ
イロヒテガアルマイ

○ふとむらび

テナグサマ
手の進むに集りて

あノ部

あいごささり

アイキヤウガコボレル
ベタツイテ居ル

○あはざら

ムラノトスル
雲よさる

○あへあ

アイツガナイ
ハリヤヒガナイ

あへかく

テモチブサタ
ヒヤウシナタ

○あ

へらふ

ツキヨクモテナス

○あと

カタ
レイ

あことあは

レイニ
スル

○あとえりもあ

シカトシタ
アトモナイ

○あとう

がさり

後悔とへむが如し
後悔とへむが如し

○あぢさあ

ウマミガナイ
ニかくシイ

五十四

ラキモナイ
曲がナイ

○ありぬてのちひ

シマヒ
ニハ

あまての後も

アトノア
トマデ

○ありのまゝ

アルニ乗
シテ

○あつちまは

ナイモド
スセン

○あつちまは

モテナス
キヤウオウスル
フルマヒスル
ナサウスル

○あつち

つる
サワギ
マハル

あつちまは

あつちまは

ゲヒンナ
カルくシウ

オクユカシミガナイ
ニモシヤくりモナイ

あつちまは

ゲヒタ
コエ

あつちまは

イヒホグス

あつちまは

ウラミガナイ
オクユカシウナイ

あつちまは

ことわり

水クナイ
サマシ

新撰字鏡の惶急を阿和豆と註せるにより考へ
あつち以下は阿和の假字あることとつか

前篇ハミ
あそとあり

○あつち

ワカレク
ニナル

○あつちまは

スコシノマ
シバシバ

○あつち

アナタ
サマ

○あ

ぶ
ウハスビ
リスル

あつち

キガトリシマラヌ
オチツカヌ
タノミズクナイ
ウハくトシタ

あつち

心
タノミズク
ナイ心

あつち

ウハキモノ
タノミズクナイ人

あつち

あつち

る
あつち

タノミニナ
ラヌヤウス

あつち

キラヘダテル

○あさまる

テキタ
ハレル

あさまして

ニラマ
レテ

○あつ

ごえしる

アツグ
テキナ

○あがづち

ゼヒニ
ヒヒテ

ネホリハホリ
ドウアツテモ

アチホゼリニ
ナルタケハ

○あぬおそり

ヤレオン
ロシヤ

○あお

アチラ
ノホウ

あ

あさめて

アチラム
キノホウ

○あさぬ

アラク
マシイ

○あ

らど

サウテハ
アルマイ

○あぐる

在所^ア離^カの義^カて在所^カを
離れてゆく意なり

○あ

わ
モヤウ

○あやふ

あやめふ

あやめさぬ

ムヤクナ
ワケガシレヌ
ムツチヤリトシタ

○あま

スサマジウ
イカイ

○天のさか

あまを

さうでハ深手^カて其態^カ小^カ樂^カ
あまをたぬ手を拍あり

○あまえて

ソウナラズ
ト思テ

ノツテキテ 前篇にあまてとあるハ非之十訓抄不可專思慮事と云条の
始にあまやうとあれバあぬえあまもと活用く語之俗語也あまやう

とらふ

○あげおとり

トガイテカヘツテ
ワルヤナル

○あふ

サダマリノ外へ出ル
アマリモノニナル

○あふさぬ

ステモノ
ニセヌ

○あふさる

に

ユキモドリニ
左ニアツク右ニタラヌ

○あこ

コチ
ノコ

○あえ

アヤ
カル

あえが

○ *カ* *リ* *ナ* *ガ* *ラ*

○ *セ* *ニ* *ハ* *ウ*

○ *ア* *ブ* *セ* *ル*

○ *カ* *ラ* *ガ* *ム* *シ* *ク*

○ *ヒ* *ヤ* *ケ* *タ* *ヤ* *ウ* *ナ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク*

○ *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *ソ* *レ* *ハ* *ソ* *レ* *ニ* *シ* *テ*

○ *ア* *ラ* *ガ* *ナ* *テ*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

○ *モ* *チ* *ニ* *ハ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *サ* *ウ* *モ* *ノ* *ク* *セ* *ニ* *ナ* *ウ* *テ* *ア* *ル*

○ *カ* *ミ* *ノ* *サ* *ガ* *リ*

〇 *サウナイ* *ノサヘ*
 〇 *ホニ*
 〇 *ニ*
 〇 *ツキモノ病氣*
 〇 *ツワツクツワツクスル*
 〇 *ヒワミナウスル*
 〇 *ツキモノ病氣*
 〇 *邪氣の字音*
 〇 *ヨケル*
 〇 *ハナス*
 〇 *ヒキハナス*
 〇 *ナイ*
 〇 *ジヤ*

〇 *ツボネ*
 〇 *曹司*
 〇 *ホニ*
 〇 *ニ*
 〇 *ツワツクツワツクスル*
 〇 *ヒワミナウスル*

〇 *ヒキサゲテ*
 〇 *セバミル*
 〇 *ヒキサゲテ*
 〇 *セバミル*
 〇 *ツキモノ病氣*
 〇 *邪氣の字音*

〇 *コザカシイ*
 〇 *カシコダテ*
 〇 *コシヤクニ*
 〇 *ミヤクソア*
 〇 *ゲニナク*

〇 *カシコダテ*
 〇 *アミノビヤク*
 〇 *ツラテ*
 〇 *居ル*

〇 *オワカへ申テヨリマス*
 〇 *伺候イタシテヨリマス*
 〇 *ツレコンハ*
 〇 *テツドコノトホリ*
 〇 *キドコロガ*
 〇 *ヨイ*

〇 *サウシテ*
 〇 *ミタラバ*
 〇 *ツレ*
 〇 *デモ*
 〇 *コゴエテ*
 〇 *ハナス*

〇 *ヒソク*
 〇 *イフ*
 〇 *ソシテ*
 〇 *ソレテ*

〇 *ミタイ*
 〇 *ミク*

〇 *コブリン*
 〇 *ナ*

〇 *ナ*
 〇 *イ*

〇 *ナ*
 〇 *イ*

ソコヲメガケテ
ソコヲ心ザイテ

ワガト思
ヒタツテ

○さしりどよ
イロくノ事ガ
イツ時ニナル

○さしあぐら

サウシテキナリニ
サウシテキナガラ

○さしぐむ後

ナミダ
グム

○さしそ
さしそ

心サ
イテ

○さしそ
ソレホ
ドニモ

○さし

サウナリテ
ソノヤウニモ
ソノヤウニサテモ

○さしそ
ソレコソド
ラナリト

さしあぐら

ソレハドウアラ
ラトカマハヌ

○さしぐら
サウハイヒ
ツヤハリ

さしノ部

さしえ

ブンゲン

○さしよ

ウツクミウ
アカヌケノミタ
テギレイニ
ウウキリトミタ

スキトホル
ヤウニ

○さしお

ナイミヤウムキノサシキ
キタウケ

○さし

さし

さし

フダシキ
テナル衣

○さしぐ中

キイタ
ノ中デモ

○さし

外聞

○さしえぐる

キカセト
モナイ

○さし

クラサ
シコク

○さし

○さし
キ
出ス

さし

さし

キナレ
テ居ル

○さし

キ、ワケ
がナイ

○ *まゝ* *まゝ*

まゝ *たがふる*

キ、ゾコ
ナフ

○

ま *ま* *く* *に*
ツクロヒ
ゲナレニ

ま *ま* *く* *入*
ミエタトホ
リノ入

ゆノ部

ゆ *ゆ* *ろ* *あ* *る*
オツヒラ
イタ

○ *ゆ* *る* *び* *あ* *る*
スキノ
ナイ

ゆ *る* *び*

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
十カノヨイ
ムツコイナカ

○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
ベニガヨイ

○ *あ* *ま* *あ* *ま*
アルキク

○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
アニナイ
ナレニ

○

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
ユウ
カタ

○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
ユキニ
クイ

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
ユキトホツテ
シマヒニクツ

○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
イロジロ

○

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
ケチナ
レイガフルイ
イマクミイ
タイセツチ

○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
コトヒク
テツキ

あ *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
○ *あ* *ま* *あ* *ま* *あ* *ま*
シサイ
ラセイ

ゆノ部

ゆ *ゆ* *ち* *あ* *ま* *あ*
ハナノ
サキ

○ *ゆ* *ゆ* *ち* *あ* *ま* *あ*

見及ビくスルニ
ミモツテラクルニ

○めとあまらメラヌ メラヌ スム ○云くめら云くノカホ ツキスル

○めあせミツケテキル 見及ニテキル めあれてツネノフ ニナフテ ○

めあぶ人オナジク ニ年女人 ○めうツギヘラ ツル目 ○

めぐるツギくハマル グルくハマル ○めやミニクカラヌ ミヨイ ○

めでキズノナイ キズナ ○めであアヒンガ ツキル ○めアヒンガ ツキル

まメニアマル ネムイノモサタル位ニ ○めもあノモ子ロツ クホドニ

ミノ部

みミツ ケル ○みとミヒミ テメヌ ○みミヒミ テメヌ

美ミテ賞 美スル ○身ミブニスギテ ミブニサウオウ 身ミブニスギテ ミブニサウオウ

みミヨリ あまる 美に上に 向ド ○み身ニツ サレテ ○

みユキチ カヒニ ○みヨケテ居ル マモ十ク

○身カラダガフ タツホシイ 身カラダガフ タツホシイ 身カラダガフ タツホシイ

身とらふ共上 身とらふ小同

身とらふミラコニスル 身とらふミラコニスル

身とらふミラキラレヤウナ 身とらふミラキラレヤウナ

身とらふカラダヲナイモノニスル 身とらふトニセイニスル

身とらふカホラマアハス 身とらふカホラマアハス

身とらふミラゲテ 身とらふミラゲテ

又見隠の意あるも あり混むミフシク あり混むミフシク

あさミスボラニイ こそらにナニクソツト こそらにナニクソツト

さくやきソツテハナ みるミツクニ みるミツクニ

ぞかけ衣桁 こそむハジメテミル こそむハジメテミル

若歯組の義若歯組の義 若歯組の義若歯組の義 若歯組の義若歯組の義

申

ナカノヨイ

○こあぐろ

ヒツクルノテ

○こあじ衣

フダシキテ
居ル衣

○こあし

ヨイカゲン
ナミヤウ

こあし

ミツクロヒヤル
ミアテガフ

○みらくさく船く

ミユル
ガクナイ

○こあび

ヤサシ
ミ

あびふ

ツギクト

こあびうある

こあびふろー

ヒシノ
ヨイ

○こあし

ミルニモセヨ
ミヌニモセヨ

○御ふらびづら

る

官位ヲシ
アゲラルハ

○こごめさ

水ノ中ニ
アツテ

○みえさ

ミエタモノ
ガミエヌ

○こあし

セワラ
ヤク

○こあし

御領分

○こあし

モチマヘノヒトキバリ
イキヂ

○耳

耳

かろうぶ

キノワケガハヤイ
ミ、ガウナイ

○耳とろ

キノワケガ
オソイ

○みえ

ミブシ
ソレノ

○こあし

ミウゴ
キスル

○こあし

ブキヨ
ウナ

○身しと

ミブシ
ヒトリマヘニ

シシバ
カリニ

○身も

カラダガ
コハクテ
タマラヌ

○見もあへど ミテ居ル
マモナウ
○こまぐさ ミナガシニ
セズニ

一ノ部

志ろに ソノカ
ハリニ
○志ばあ ナシベン
モナウ
○志ぶく キセ

バラヒ
スル 志ぶき セキ
ヤミ
○志がち 新發意
シニマイハウダ
○ キセ

志あ シホタ
レル
○志あ シホタ
レル
○志あ シホタ
レル

カタク白シイ
シチノイ ○志あ ナニモカニモアタル
スイモアマイモシル
○志 小兒
の尿

今俗 シハとシハ
一とと小兒詞
○志 ナイシヤウデソシル
カゲグチ
○志 マカヒ
モナウ

志り ハツカシナガラミル
シリノツカヒ
○志 領分
○志 トメヲ
スル

○志 ミエスク
テゴタヘ
○志 心オ
ボエ
○志 ソノヤウニ
サウ
○志 カラミ
アハス

○志 心オ
ボエ
○志 ソノヤウニ
サウ
○志 カラミ
アハス

志 ソノヤウニ
ソレホド
○志 カラミ
アハス
○志 カラミ
アハス

志 ソノヤウニ
ソレホド
○志 ツノヤウ
一シカモ
○志 ツノヤウ
一シカモ

リヤハ ○志シのシ心シ シタヂ ○志シのシ心シ ナノタ ○志シのシ心シ カホツキ

志シのシ心シ キマリラ ツケル ○志シのシ心シ 人ノシラヌ クツタク 志シ

志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ コノロネ ○志シのシ心シ オロカ シイ

身ミヂヂ ○志シのシ心シ キヌケニナウテ アホウクヤウニナウテ 志シのシ心シ オロカ シイ

ウウケケタタ ○志シのシ心シ バカモノ カシコウナイヌ ○志シのシ心シ ネサ セル

ヤヤウウニニ 志シのシ心シ キガオチカカヌ オチツイテ居ラレヌ ○志シのシ心シ オチツイテ居ラレヌ

シシニニナナララトトシシタタ ○志シのシ心シ ソレノニ ○志シのシ心シ ワカル ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

フフウウノノヨヨイイ ○志シのシ心シ シメカク 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

テテニニイイシシルル ○志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

宿シュク徳トクのノ 志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

字ジ音オンとト 志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

志シのシ心シ ワカモノニスル 志シのシ心シ 上ホ 同ド ○志シのシ心シ モツタイガ アツテ

ワガモ
ムデイ

○志ド波

無言
モノイハヌ

○志〜〜〜

コジケル
シモツレル

シオホセヌ
シゾコナフ

○志もや

シモくムヤ
雑舎

○志もがちあるお

もやう

ゲビタカ
ホツキ

志ノ部

志みのもあひらく

花ガサク
エツボニイル

○志ひ〜〜して

酔クサ
ツテ

ひノ部

びんあー

ツガフノワルイ
クノニノワルイ

グアヒノワルイ
イヂラヒイ

○びんぐ

ビン
サキ

○ひとり

ヒトリ
ダツテ

ひとり〜

ワクネント
ヒテサテ

○

ひとりぶー

ヒトリネ
コロゲ

○ひとりごつ

ヒトリゴ
トイフ

○

人〜ある

外聞ノワロイ
ワラヒグサニナル

○ひと〜

イツ
ヘンツ

○

人〜る

エリキラ
ヒスル

○ひとかど

ヒトキ
リヤウ

○ひと

よろひ

イツワイ
一雙

屏風厨子か
どいっへり

○ひと〜

一族
シニル井ウチ

○

ひとつ名 オナジ 名目
○人おに セイジン 井セル
○人うさうもて

おに シツカズキ サビシイズキ
○人やりあふぬ テマヘムキノ ワレトワガデニ
○人ごと スラシツ

アウゼツ スラシツ
○人ごうやさし ヨノキコエ ガワルイ
○人めうす スラシツ

○ひとく オシナラシニ ヒトナニニ ナガシシカナニニ ソロヒキツテ
ひとくおまに 上ハ 同ド

○人あれぞ ニシテ
○ひぢもち ハリヒヂ ノヤウス
○ひ ヒ

がさぬに 正タウ デナイ
ひぐま ヒト シセ
ひぐめる ヘニクツナ ヒトクセアル
ひづ

もの ヒトクセ アル
○ひさ イチツニ ヒタモノ
ひさびさ ヒキ

ヂキ オシツヨウ ヅテニ カタイツナニ
ひさびさ 共ホト 同ド

ふる心 イツホウヘカタヨツタ心 ムトクシニナコハロ
○ひさひちうやうふ ネコビ タヒ

ひそきて モノシツカニ ヒツソリトシテ
ひそ心 キガカハハス ヒキナ
○ひ孫 アカチノ ニシキ

又ヒモ ノスル
○ひらむり テニマク
○ひぞん アカチノ ニシキ

○ひこころふ 引ハリ アフ
○ひさし フダニノ コデナイ
○

六七

○ものあさやうに ウツキリトニタ
アカヌカミテ
○めてたがる

トリチ
ガヘテ ○もてあやまぐさ イヒグサ
評判ノタネ
○いぬの

不ウ
ムカフ 百アシモ

せノ部

せちに ミニジツヲミセテ
シキリニ ○せしめく オトツレラヌル
アニナイスル
六双

ノコヒメノヒラ
イラネガフ ○せとそこまゐる

すノ部

ずんに ツギヘク
順ニ せんかぐる ツギくへマル
順盃 ○せがく

直々
シキク せがくと テガルウ
スラクト せがやうに シリカルニ
神代紀の清々

せがく スツカリト
コマカイテラヒク
テゴトヲヒク ○すがかく カク

○すろし タラシテ せう タマス ○せぐく

ヨリア
ツル ○すあ マツスダ ○せぐ クフ ○せく

きんぐらむむ 好色 ウツリギ
○きんぐらむむ カケカマヒ ナシニ

手丈夫ナ
○すくせ ヤクソクコ イニエン
○きやのむら ナシニ

ソイウラ
○きまふ トウリウスル イチバル
○すけ 出家

○きびあー ニベモツケズニ シヤクリモナイ
○きびこら スクンダ

すげこら 不調法ナモノイヒ
○すこーふら 調法スル キニイル

らに 懐妊
○きざ ケライ
○きさむら 調法スル キニイル

○きさめぬ スノマヌ キニスノマヌ
○すきひづむ ハシモレル コエ

すきひづめる トシヨリノ モノイヒ
○きんぐら 好色 ノク

きんぐら ウハキ モノ
○きんぐら 墨画
○す

きんぐら スニキツ テアル
○すき スミアク
○き

きんぐら トリノコニニアラ フリノコサレル
○き アテト ナシニ
き

ろさむ ノツタニサムイ
○き アラヒオトス



